

Ⅲ 教育委員会施策の 点検・評価

〔第3次とよおか教育プラン
平成29年度実践計画
検証総括シート〕

第3次とよおか教育プラン平成29年度実践計画の検証について

1 実施方法

平成29年度実践計画に定められている指標について、年度途中において学校現場及び担当課による自己検証のほか、検証委員会による外部検証を行うとともに、年度末において教育委員会による最終検証を行った。

2 検証結果の示し方

検証結果は、2つの基本方針で定められた9つの基本的方向ごとに「検証総括シート」を作成し、各々で設定された指標及び施策・取組の検証、中間検証における外部検証意見を取りまとめた。

また、中間外部検証結果及び次年度実践計画策定作業を踏まえ、年度末における最終検証を取りまとめた。

3 表記・記号の説明

(1) 指標項目について

ア 「■」印の指標項目

全国学力・学習状況調査（毎年4月20日頃実施・8月下旬結果公表）の結果の数値を使用。従って、実施年度の数値は前年度の取組が反映すると捉えられるが、実施年度の結果を目標値に対応させて評価することとする。

イ 「□」印の指標項目

全国学力・学習状況調査以外の全国調査や各担当課による独自調査、取組による結果の数値を使用。

(2) 指標数値について

ア H28現状値

- ・原則は平成28年度の実績値を表記するが、取組によっては前年度の実績値を表記する。当該年度を〔 〕内に表記する。
- ・H28現状値のうち、（ ）内は対H28目標差を、○印はH27現状値よりも改善した指標を示す。

イ H29目標値

- ・実践計画策定段階で設定した目標値を表す。
- ・H29目標値のうち、（ ）内は対前年差を表す。

ウ H29指標の実現状況

- ・原則は平成29年度の実績値を表記するが、取組によっては前年度の実績値を表記するものがある。この場合は [] 内に当該年度を表記する。
- ・H29指標の実現状況のうち、() 内は対目標差を、「○」印はH28現状値よりも改善した指標を表す。

(3) 教育委員会（担当課）及び検証委員会による検証結果の評価記号

教育委員会（担当課）検証（中間・年度末）		検証委員検証	
S	目標達成・取組完了（目標達成、事業計画完了による取組終了）	○	妥当
A	継続実施（拡充・現行方法による継続実施）	△	疑義あり
B	改善実施（取組の改善・見直しによる継続実施）	—	評価不能
C	抜本的見直し（取組を継続する場合は抜本的な見直しが必要）	※担当した検証委員3名の検証を記載する。	
D	未取組廃止（効果・必要性等から取組を廃止）		

第3次とよおか教育プラン 平成29年度実践計画 施策・取組一覧

基本方針1 夢実現力を育む教育の推進		担当課
基本的方向1 「あたまの力」の育成		… P. 20
施策⑦ 全国学力・学習状況調査の結果等を踏まえた学力向上策		
1	1 市及び各小・中学校の分析結果と対応策の作成	こども教育課
2	2 「授業を核にした小中一貫教育の充実に係る研究」の推進 <新>	
3	3 読書活動の習慣化と読書の質の向上を目指した読書活動の推進	
4	4 放課後等における補充学習の実施	
5	5 きめ細かな指導の充実を図るための指導補助教員の配置	
6	6 新学習システムによる指導体制や指導方法の工夫・改善	
施策⑧ 小中一貫教育を核とした連携教育		
7	1 豊岡市小中一貫教育「豊岡こうのとりのプラン」の推進 <新>	こども教育課
8	2 国語科9年間カリキュラムの研究と更新	
9	3 小学校区を基本単位とした「保幼小連携教育」の推進	
10	4 小規模校園の教育課題に対応するための「小小連携教育」の推進	
施策⑨ 家庭での基本的な生活習慣と学習習慣の確立のための家庭との緊密な連携		
11	1 家庭での基本的な生活習慣と学習習慣の確立	こども教育課
12	2 家庭での読書習慣の確立	
基本的方向2 「こころの力」の育成		… P. 23
施策⑩ 発達段階に応じた「夢実現力を育む」キャリア教育		
13	1 組織的・系統的なキャリア教育の推進によるキャリアプランニング能力の育成	こども教育課
14	2 多様な体験活動の実施によるキャリア形成への支援	
15	3 地域との連携を図った「トライやる・ウィーク」事業の充実	
16	4 生徒一人一人の能力・適正を踏まえた進路指導の実施	
*「夢実現力を育む」文化・スポーツ振興事業		
17	5 美術展の開催	文化振興課
18	6 参加型演劇の開催 <新>	スポーツ振興課
19	7 スポーツ教室の開催	
施策⑪ 子どもたちの発達段階に応じた体験を重視した活動		
20	1 児童会・生徒会活動、リーダー研修会等の充実	こども教育課
21	2 福祉体験活動やボランティア活動など社会体験の機会の充実	
22	3 ふるさとの「ひと・もの・こと」に学ぶ「ふるさと実感・環境体験事業」「自然学校」「体験的ふるさと教育」等の推進 <関連>	
*「ふるさと教育につながる」文化振興事業		
23	4 出石永楽館狂言教室の開催	文化振興課
施策⑫ 学校教育活動全体を通じた道徳教育		
24	1 「豊岡市地域道徳教材」と「兵庫版道徳教育副読本」の活用 <関連>	こども教育課
25	2 体験的・実践的な活動を通じた道徳性の育成	
26	3 地域の人材活用の推進	
施策⑬ 生命の尊厳を基盤にした人権教育		
27	1 人権尊重に基づいた学校文化構築に向けての研修の充実	こども教育課
28	2 いじめやインターネットによる人権侵害等、今日的な人権課題に対応した人権教育の充実	
29	3 人権尊重を基盤とした社会をめざす教育の推進と家庭・地域・関係機関との連携の推進	
施策⑭ コウソリを核にした環境教育		
30	1 地域の実態に応じた環境教育の充実	こども教育課
31	2 『いのち』について学ぶ「生きもの共生の日」(5月20日)の取組の充実	
施策⑮ グローバル化に対応した教育		
32	1 情報モラルの育成	こども教育課
33	2 学校・地域で学ぶことのできる文化や伝統を大切に活動の推進	
34	3 大韓民国・アメリカ合衆国・モンゴル国との友好親善交流の実施	こども教育課/文化振興課
35	4 子どもたちが豊岡で世界と出会う音楽祭の開催	生涯学習課
施策⑯ 過去の災害の教訓を踏まえた防災教育		
36	1 関係機関・地域と連携した防災訓練の実施、参加	こども教育課
37	2 災害対策マニュアルの不断の見直し	
38	3 過去の災害等を踏まえた防災・減災授業の実施	
施策⑰ 豊かな人間関係の構築		
39	1 子どもと心でつながる市民運動の推進 <拡><関連>	生涯学習課
40	2 とよおか家族の日(10.8)及びとよおか家族の月間(10月)の取組強化	

基本的方向3 「からだの力」の育成		… P. 28
施策⑦ 全国体力・運動能力等調査の結果等を踏まえた体力・運動能力の向上		
41	1 「豊岡版小学校体育準備運動」の共通実践と体育授業の充実	こども教育課
42	2 新体カテストを活用した体力づくり運動の実施と体育・スポーツ活動の推進	
43	3 各種体育大会の充実	
施策⑧ 望ましい食習慣の形成を図る食育		
44	1 家庭や地域と連携した食に関する教育の推進 「食育の日」(毎月19日)、「弁当の日」の推進	こども教育課
45	2 食に関する指導の充実	
施策⑨ 心身の健康課題に適切に対応する健康教育		
46	1 発達段階に応じた健康教育の推進	こども教育課
47	2 関係機関と連携した各種講習会の推進	
48	3 規則正しい生活習慣の確立	
基本的方向4 「あたま・こころ・からだの3つの力を支える基礎力」の育成		… P. 31
施策⑦ 健康な体をつくる運動遊び		
49	1 幼児期における運動遊びの推進	こども育成課
50	2 親子ふれあい活動の推進	
施策⑧ 基本的な生活習慣の確立		
51	1 生活リズムの定着の推進	こども育成課
52	2 幼児期の基本的な生活習慣の定着	
53	3 食育の推進	
施策⑨ 身近な環境への好奇心や探究心の育成		
54	1 自然・ふるさと体験の充実	こども育成課
55	2 動物の飼育や野菜などの栽培活動の推進	
施策⑩ 人の話を聞き、自分の思いを言葉で表現する力の育成		
56	1 絵本の読み聞かせの推進	こども育成課
57	2 話す力・聞く力の定着	
58	3 感じたことや考えたことを表現する力の育成	
施策⑪ 様々な体験活動		
59	1 就学前の教育・保育計画「スタンダード・カリキュラム」や「すくすくプログラム-5つの育てたい力-」を基本とした就学前教育の充実	こども育成課
60	2 様々な体験活動の積み重ねと社会的ルールの育成	
61	3 周囲の大人や子どもと関わる力の育成	
62	4 英語遊び保育の推進 <拡>	
基本的方向5 特別支援教育の充実		… P. 34
施策⑦ 発達特性の理解と早期からの一貫した支援		
63	1 豊岡市こども支援センターの機能の充実 <関連>	こども教育課
64	2 スーパーバイザー支援事業	
65	3 校園内支援体制の充実	
66	4 ニーズに応じた合理的配慮の提供 <新>	
67	5 個別の教育支援計画の作成・活用の促進	
68	6 個別の指導計画の作成・活用の促進	
69	7 教職員の専門性向上をめざした実践的研修の推進	
70	8 就学指導のための教育相談の充実(校園内及び各関係機関) <関連>	
71	9 卒業後までを見通した教育的支援・指導の引継ぎの推進	
72	10 介助員並びにスクールアシスタントの効果的な活用	
73	11 保育園等巡回相談の実施	
施策⑧ 共に学ぶことで豊かな人間性を育む交流及び共同学習		
74	1 交流及び共同学習の推進	こども教育課
75	2 地域における交流会の実施	
施策⑨ 保護者支援		
76	1 子育てに関する相談を通して支援が必要な園児児童生徒の早期発見と保護者支援	こども育成課
77	2 就学に向けた相談支援の充実 <関連>	

基本方針2 子どもたちの学びを支える仕組みの確立

基本的方向1 学校園の組織力及び教職員の資質能力の向上 …… P. 37

施策② 校園長のリーダーシップのもと教職員一人一人の力を組織的かつ機動的にいかしていく協働体制の確立

78	1 管理職研修	こども教育課
79	2 学校教育経営研修	
80	3 小・中学校と関係機関との生徒指導に係る情報交換の推進	
81	4 子どもと向き合う時間の確保	
82	5 働きやすい職場環境づくり	
83	6 学校評価の推進	

施策④ いじめや暴力行為等の問題行動の未然防止、早期発見、早期対策

84	1 いじめ防止基本方針に基づく、いじめの未然防止、早期発見・早期対応における組織的な対応の充実	こども教育課
85	2 「不登校アクションプラン」の積極的な推進 <拡>	
86	3 不登校対策指導補助教員の配置	
87	4 スクールカウンセラーによる相談支援事業の実施	
88	5 「子どもの心を理解する強化月間」の充実	
89	6 心理検査を活用した生徒指導の充実	

施策⑤ 授業力や多様な教育課題への対応力等教職員の資質と実践的指導力の向上

90	1 授業力づくりと学級づくりの一体化の質的向上	こども教育課
91	2 児童生徒理解に基づく生徒指導の推進と対応能力の向上	
92	3 校内研修担当者研修	
93	4 教職員の研修ニーズに対応する研修 <新>	
94	5 初任者及び2年次・3年次研修	
95	6 豊岡市中学校教育研究会・教科部会の充実	
96	7 児童生徒及び教職員のICT活用能力の向上	
97	8 民間企業等における社会体験を行う「先生のトライやる」の実施	

基本的方向2 安全・安心な教育環境の整備 …… P. 40

施策⑦ 学校園及び給食センターの安全対策やICT環境等の教育環境の整備・充実

98	1 学校園施設、設備、遊具等の定期的な安全点検及び改修並びに整備の実施	教育総務課
99	2 老朽プールの整備	
100	3 吊り天井等落下防止対策の推進	
101	4 ICT環境の整備 <拡>	
102	5 地産地消の推進と安全・安心な学校給食の提供	
103	6 食物アレルギーへの取組の推進	こども教育課
104	7 通学(園)路の安全点検と安全教育の充実及び関係機関・保護者・地域との連携強化	
105	8 通学(園)手段の確保	
106	9 幼児教育・保育施設の整備	こども育成課

施策⑧ 様々な困難や課題を抱える子どもたちに対する教育の機会を確保するための就学支援

107	1 要保護・準要保護児童生徒への就学援助費の支給	こども教育課
108	2 特別支援学級在籍児童生徒への就学奨励費の支給	こども育成課
109	3 就園奨励事業(実費徴収に係る補足給付事業)の実施	
110	4 多子世帯・ひとり親世帯の保育料負担軽減	

基本的方向3 家庭の教育力の向上 …… P. 42

施策⑨ 親が親として成長するための学びの機会の提供

111	1 はばたきメッセージを活用した家庭教育のあり方の充実	こども教育課
112	2 PTA活動の充実	こども育成課
113	3 子育て家庭を対象とした子育て講座の実施	
114	4 親子が交流できる機会の充実	

施策⑩ 関係機関の連携による家庭教育への支援

115	1 子育てに関する相談の充実	こども育成課
116	2 子育てに関する情報発信	
117	3 学校園と家庭児童相談室・こども家庭センターなどの関係機関との連携	

施策⑪ 家庭における子どもが伸びる習慣づくりの実践

118	1 すくすくメッセージや紙芝居「めらとにんじやのしゅぎょう」を活用した乳幼児期の生活リズムの定着	こども育成課
119	2 「運動遊びパンフレット」「おでかけマップ」により、家庭や地域での運動遊び・外遊びの促進	

施策⑦ 地域が主体的に学校運営に参画し、効果的な学校園支援活動を行うこと等地域ぐるみで子どもを育成する体制づくり		
120	1 安全ボランティアによる見守り活動の継続及び活動支援 <拡>	
121	2 学校支援地域本部事業の推進	こども教育課
122	3 土曜チャレンジ学習事業の推進 <拡>	
123	4 子どもと心でつながる市民運動の推進 <関連>	
124	5 青少年健全育成推進及び青少年補導委員の連携・活動の充実 <拡>	生涯学習課
125	6 「家読」の推進	
126	7 子どもの野生復帰大作戦の展開	
127	8 仕事と子育ての両立支援	こども育成課
施策⑧ 学校園からの積極的な情報発信を踏まえた地域と学校園の緊密な連携		
128	1 学校・家庭・地域の連携強化 <拡>	
129	2 地域や警察等環形機関と一体となった防犯訓練の全校実施	
130	3 「子どもを守る110番の家」等の避難場所の周知など地域安全マップの定期的確認	こども教育課
131	4 開かれた学校づくりの推進	
132	5 学校評議員制度を活かした学校園づくりの推進	
133	6 学校関係者評価の実施と結果の公表	
134	7 幼稚園・保育園・認定こども園の園児と在宅親子との交流	こども育成課

第3次とよおか教育プラン(豊岡市教育振興基本計画)

平成29年度実践計画検証総括シート

基本方針1	夢実現力を育む教育の推進
基本的方向1	「あたまの力」の育成
	子どもたちに、基礎的・基本的な知識・技能を習得、活用し、自らを高め学び続ける力を身に付けさせることが重要である。 このため、⑦全国学力・学習状況調査の結果等を踏まえた学力向上策、①小中一貫教育を核とした連携教育、②家庭での基本的な生活習慣と学習習慣の確立のための家庭との緊密な連携等に取り組む。

【指標の検証】

指標名	H28現状値(目標差)	H29目標値(前年差)	H29指標の実現状況
■「全国学力・学習状況調査」のA問題における正答率が40%以下の児童生徒の割合	小国A 8.5% (+0.5)○ 小算A 5.8% (-2.8)○ 中国A 3.9% (-0.9)○ 中数A 18.1% (-9.1)	小国A 8% (+1) 小算A 3% 中国A 3% 中数A 9%	小国A 8.0% (±0.0)○ 小算A 8.3% (-5.3) 中国A 2.6% (+0.4)○ 中数A 13.4% (-4.4)○
■国語、算数、数学の勉強が好きだと思っている児童生徒の割合	小国 56.6% (-6.4) 小算 64.3% (-3.7) 中国 47.9% (-6.1) 中数 53.5% (-7.5)○	小国 63% 小算 68% 中国 54% 中数 61%	小国 62.4% (-0.6)○ 小算 67.0% (-1.0)○ 中国 49.9% (-4.1)○ 中数 54.8% (-6.2)○
■普通の授業で、はじめに授業の目標(めあて・ねらい)が示されていると思う児童生徒の割合	小 90.8% (+0.8)○ 中 91.5% (+17.5)○	小 92% (+2) 中 92% (+18)	小 90.8% (-1.2) 中 93.6% (+1.6)○
■普通の授業で、最後に学習内容を振り返る活動をよく行っていると思う児童生徒の割合	小 80.9% (+1.9)○ 中 65.4% (+10.4)○	小 82% (+3) 中 66% (+11)	小 82.9% (+0.9)○ 中 61.4% (-4.6)
■話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思う児童生徒の割合	小 70.9% (+2.9)○ 中 62.2% (-0.8)○	小 71% (+3) 中 63%	小 72.2% (+1.2)○ 中 64.8% (+1.8)○
■学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たり全く読書をしない児童生徒の割合(教科書や参考書、漫画や雑誌除く)	小 17.2% (-2.2) 中 34.0% (-8.0)	小 15% 中 26%	小 19.1% (-4.1) 中 33.5% (-7.5)○
■家庭など学校での授業以外で平日に学習時間が30分未満の児童生徒の割合(学習塾で勉強している時間や家庭教師に教わっている時間も含む)	小 5.7% (-0.7) 中 8.9% (-3.9)	小 5% 中 5%	小 7.0% (-2.0) 中 8.1% (-3.1)○

■・・・全国学力・学習状況調査の児童生徒質問紙を用いて評価を行う指標。

□・・・各所管課の事業や独自調査などの結果により評価を行う指標。

※全国学力・学習状況調査【平成29年4月18日実施】

国・公・私立学校の小学6年生と中学3年生を対象に実施する、国語、算数・数学、理科の教科に関する調査及び生活習慣や学習環境等に関する調査。(4月実施、8月結果公表)

※H28現状値のうち、()内は対H28目標差を、○印はH28現状値よりも改善した指標を表す。

※H29目標値のうち、()内は対前年差を表す。

※H29指標の実現状況のうち、()内は対H29目標差を、○印はH28現状値よりも改善した指標を表す。

教育委員会 (担当課)検証 (取組の継続等)	S 目標達成・取組完了 (目標達成、事業計画完了による取組終了)	検証委員検証 (担当課評価の妥当性)	○ 妥当
	A 継続実施 (拡充・現行方法による継続実施)		△ 疑義あり
	B 改善実施 (取組の改善・見直しによる継続実施)		— 評価不能
	C 抜本的見直し (取組を継続する場合は抜本的な見直しが必要)		
D 取組廃止 (効果・必要性等から取組を廃止)			

〔施策と取組の自己検証〕

施策 ㉗ 全国学力・学習状況調査の結果等を踏まえた学力向上策	中間外部検証		年度末検証	所管課
	担当課	検証委員会	教育委員会	
1 市及び各小・中学校の分析結果と対応策の作成	B	〇〇〇	A	こども教育課
2 「授業を核にした小中一貫教育の充実に係る研究」の推進	A	〇〇〇	A	
3 読書活動の習慣化と読書の質の向上を目指した読書活動の推進	A	〇〇〇	A	
4 放課後等における補充学習の実施	A	〇〇〇	A	
5 きめ細かな指導の充実を図るための指導補助教員の配置	A	〇〇〇	A	
6 新学習システムによる指導体制や指導方法の工夫・改善	A	〇〇〇	A	
<p>(施策における取組の総括:担当課中間検証)</p> <p>指標の『『全国学力・学習状況調査』のA問題における正答率が40%以下の児童生徒の割合』において、小国語A・中国語A・中数学Aで平成28年度数値より上回る結果となった。しかし、小学校では、全国平均と比較して下回っている現状がある。</p> <p>そこで、各校には、児童生徒の状況等について分析し、授業改善の方策を具体的に検討するとともに、全教職員で共通理解を図って実践するよう依頼した。また、市教委では、学力向上検討委員会を設置し、これまで国語科9年間のカリキュラムの研究で培ってきたものを土台にして、学力・学習状況調査の分析結果をもとにした授業アイデアを提案し、確実に周知をしながら授業力の向上を図っていく。</p> <p>子どもの事実に学び、子どもに寄り添う教育の地道な取組により、子どもの自尊感情は高まる傾向にある。今後も「授業における5つの『徹底・継続』実践事項」の質の向上を図るとともに、「とよおかがんばりタイム」の取組や新学習システムを活用するなどして、きめ細かな指導の充実を図り、学力の向上に努める。</p>				

施策 ㉘ 小中一貫教育を核とした連携教育	中間外部検証		年度末検証	所管課
	担当課	検証委員会	教育委員会	
1 豊岡市小中一貫教育「豊岡こうのとりのプラン」の推進	A	〇〇〇	A	こども教育課
2 国語科9年間のカリキュラムの研究と更新	C	〇〇〇	C	
3 小学校区を基本単位とした「保幼小連携教育」の推進	A	〇〇〇	A	
4 小規模校園の教育課題に対応するための「小小連携教育」の推進	A	〇〇〇	A	
<p>(施策における取組の総括:担当課中間検証)</p> <p>平成29年度から全市において小中一貫教育「豊岡こうのとりのプラン」に取り組んでいる。ローカル&グローバル学習においては、カリキュラムに基づいて確実に実践を行っている。また、各一貫ブロックでは、「アプローチ&スタートカリキュラム」に基づいて、各一貫ブロックの実態に応じた取組を行っている。小中一貫教育に係る取組を確実に実践するとともに、実践を記録に残し、集積していく。</p> <p>「国語科9年間のカリキュラムの研究と更新」については、これまでの研究の成果を基に、学力向上検討委員会が行っている学力・学習状況調査の結果分析と授業アイデアの提案との統合を図り、取組を再構成して推進する。その際、新学習指導要領で示された主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善の視点を取り入れ、全ての小中学校において児童生徒の学力の向上を目指して取組む。</p>				

施策 ㉙ 家庭での基本的な生活習慣と学習習慣の確立のための家庭との緊密な連携	中間外部検証		年度末検証	所管課
	担当課	検証委員会	教育委員会	
1 家庭での基本的な生活習慣と学習習慣の確立	B	〇〇〇	B	こども教育課
2 家庭での読書習慣の確立	B	〇〇〇	A	
<p>(施策における取組の総括:担当課中間検証)</p> <p>「はばたきメッセージ」を活用して基本的な生活習慣、学習習慣の重要性を啓発している。</p> <p>家庭での読書習慣の確立については、関係機関(市立図書館・生涯学習課)や団体(PTA等)と連携し、家庭での読書習慣定着に向け取組を継続する。</p>				

基本的方向全般

施策⑦と④は新しい施策が出てきている。新しい施策が出てくることは非常に素晴らしいが、現場の負担が非常に大きく、それに対応できているのか心配する。教員がハードワークになっているのが目に見える。そのあたりを考慮しながら効率的にやっていただきたい。現場の声を聞きながら、もっとシステムティックにして効率性を上げなければ現場がパンクするのではないか。教育というものの資質がシステムを先行させることによって向上する面とマイナス面が出るので、十分協議をして取り組んでいただきたい。

施策⑦-3

読書活動における小学校の「チャレンジ！フィフティ」や中学校の「チャレンジ！サーティ」の制度は、長く続いており定着してきている。読書活動の習慣化を目指して継続して取り組んでいただきたい。

毎年各学校で廃棄する本は、読書活動の推進に向け、生徒や保護者の家読などでの活用を検討していただきたい。

施策④-2

国語科9年間のカリキュラムの研究と更新については、ある程度定着し、その成果をあげつつある。一方、担当課検証については、「C・抜本の見直し」という評価で妥当である。今後、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて、国語科だけではなく、算数・数学科や英語科なども含めて、9年間の学びを考えたカリキュラムの更新や工夫をお願いしたい。

施策⑤-1

家庭での基本的な生活習慣と学習習慣の確立のために、PTAとの連携につとめていただきたい。PTA活動の一つとして講演会の取組があるが、動員がないと出席率が低く、講演内容が良くても欠席した会員には伝わらないので、伝える工夫や参加を促す取組をお願いしたい。

また、PTA組織は地域や年によって構成に違いがあり、PTA連合会という組織もあるがあまり機能していないので、活性化を図られたい。

施策⑤-2

平成28年度のくらしのアンケートの結果では家庭で読書しない子どもが年々増加している。学校と家庭が連携して読書習慣の確立に向けて継続して取り組んでいただきたい。

学校図書ボランティアの活用については、ボランティア不足を解消するため、中学校単位で情報交換を行い、ボランティアの確保に努めていただきたい。

今後も取組を精査しながら教員一人一人が授業改善に取り組み、子どもたちの学力の向上を図っていきます。

今後も読書活動の更なる習慣化と質の向上を目指し、取組を進めていきます。廃棄される本の活用については、検討課題といたします。

今後、全国学力・学習状況調査の分析結果及び授業アイデアの提案と連動させながら、国語科以外の教科についても授業改善に向けた取組を進めます。

PTA事業とも連携を図りながら、啓発に取り組んでいきます。

関係機関やPTAとも連携し、家庭での読書習慣の確立やボランティア確保に向けて、継続して取り組んでいきます。

〔基本的方向における総括：教育委員会年度末検証〕

子どもたちに、基礎的・基本的な知識・技能を習得、活用し、自らを高め学び続ける力を身に付けさせるため、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善に継続して取り組む。小中一貫教育と連動させる取組として、小小連携や家庭との緊密な連携に取り組む。

第3次とよおか教育プラン(豊岡市教育振興基本計画)

平成29年度実践計画検証総括シート

基本方針 1	夢実現力を育む教育の推進
基本的方向 2	「こころの力」の育成
	<p>子どもたちに、ふるさとの「ひと・もの・こと」に学びねばり強く挑戦する力、また、全ての命に共感する力及び人と肯定的に関わる基本的態度を身に付けさせることが重要である。</p> <p>このため、㊦発達段階に応じた「夢実現力を育む」キャリア教育、㊧子どもたちの発達段階に応じた体験を重視した活動、㊨学校教育活動全体を通じた道徳教育、㊩生命の尊厳を基盤にした人権教育、㊪コウノトリを核にした環境教育、㊫グローバル化に対応した教育、㊬過去の災害の教訓を踏まえた防災教育、㊭豊かな人間関係の構築等に取り組む。</p>

〔指標の検証〕

指標名	H28現状値(目標差)	H29目標値(前年差)	H29指標の実現状況
■ 自分にはよいところがあると思う児童生徒の割合	小 79.2% (-3.8) 中 67.8% (-1.2)○	小 83% 中 69%	小 81.0% (-2.0)○ 中 72.9% (+3.9)○
■ 将来の夢や目標を持っていない児童生徒の割合	小 17.5% (-6.5) 中 30.2% (-1.2)○	小 11%以下 中 29%以下	小 15.4% (-4.4)○ 中 29.3% (-0.3)○
■ 人の役に立つ人間になりたいと思う児童生徒の割合	小 95.0% (±0) 中 94.4% (-0.6)○	小・中 95%以上	小 94.5% (-0.5) 中 92.1% (-2.9)
■ 地域や社会をよくするために何をすべきか考えることがある児童生徒の割合 ※H28は独自調査指標	小 70.9% (+25.9)○ (H27 小 41.9%) 中 59.2% (+24.2)○ (H27 中 32.9%)	小 75% (+30) 中 65% (+30)	小 38.2% (-36.8) 中 27.9% (-37.1)
■ いじめはどんな理由があってもいけないことだと思う児童生徒の割合	小 96.1% (-3.9) 中 95.9% (-4.1)○	小・中 100%	小 98.0% (-2.0)○ 中 94.5% (-5.5)

■・・・ 全国学力・学習状況調査の児童生徒質問紙を用いて評価を行う指標。

□・・・ 各所管課の事業や独自調査などの結果により評価を行う指標。

※ 全国学力・学習状況調査【平成29年4月18日実施】

国・公・私立学校の小学6年生と中学3年生を対象に実施する、国語、算数・数学、理科の教科に関する調査及び生活習慣や学習環境等に関する調査。(4月実施、8月結果公表)

※ H28現状値のうち、()内は対H28目標差を、○印はH28現状値よりも改善した指標を表す。

※ H29目標値のうち、()内は対前年差を表す。

※ H29指標の実現状況のうち、()内は対H29目標差を、○印はH28現状値よりも改善した指標を表す。

教育委員会 (担当課)検証 (取組の継続等)	S 目標達成・取組完了 (目標達成、事業計画完了による取組終了)	検証委員検証 (担当課評価の妥当性)	○ 妥当
	A 継続実施 (拡充・現行方法による継続実施)		△ 疑義あり
	B 改善実施 (取組の改善・見直しによる継続実施)		— 評価不能
	C 抜本的見直し (取組を継続する場合は抜本的な見直しが必要)		
	D 取組廃止 (効果・必要性等から取組を廃止)		

〔施策と取組の自己検証〕

施策 ㉗ 発達段階に応じた「夢実現力を育む」キャリア教育	中間外部検証		年度末検証	所管課
	担当課	検証委員会	教育委員会	
1 組織的・系統的なキャリア教育の推進によるキャリアプランニング能力の育成	A	○○○	A	こども教育課
2 多様な体験活動の実施によるキャリア形成への支援	A	○○○	A	
3 地域との連携を図った「トライやる・ウィーク」事業の充実	A	○○○	A	
4 生徒一人一人の能力・適性を踏まえた進路指導の実施	A	○○○	A	
*「夢実現力を育む」文化・スポーツ振興事業				
5 美術展の開催	B	○○○	B	文化振興課
6 参加型演劇の開催	A	○○○	A	スポーツ振興課
7 スポーツ教室の開催	A	○○○	A	
(施策における取組の総括:担当課中間検証) 小中学校とも、「自分にはよいところがあると思う児童生徒の割合」、「将来の夢や目標を持っていない児童生徒の割合」が改善している。キャリア教育の視点が体験活動等の取り組み方や日々の関わりに活かされるようになってきた一つの成果と考えられる。成果と課題を整理し、計画の検証と見直しを進め、取組の質の向上を図るよう各校に求めていく。				

施策 ㉘ 子どもたちの発達段階に応じた体験を重視した活動	中間外部検証		年度末検証	所管課
	担当課	検証委員会	教育委員会	
1 児童会・生徒会活動、リーダー研修会等の充実	A	○○○	A	こども教育課
2 福祉体験活動やボランティア活動など社会体験の機会の充実	A	○○○	A	
3 ふるさとの「ひと・もの・こと」に学ぶ「ふるさと実感・環境体験事業」「自然学校」「体験的ふるさと教育」等の推進	A	○○○	A	
*「ふるさと教育につながる」文化振興事業				
4 出石永楽館狂言教室の開催	A	○○○	A	文化振興課
(施策における取組の総括:担当課中間検証) よりよい学校生活を主体的に創造する活動やふるさとの「ひと・もの・こと」に触れる体験等を通して、「命を大切にす心」「思いやりの心」「共に生きる心」を育てている。これからも、さらに活動の事前・事後指導を工夫し、自分の生き方・考え方を見つめなおしたり、自分の言葉でふるさとを語ったりすることができるよう、取組を継続していく。				

施策 ㉙ 学校教育活動全体を通じた道徳教育	中間外部検証		年度末検証	所管課
	担当課	検証委員会	教育委員会	
1 「豊岡市地域道徳教材」と「兵庫版道徳教育副読本」の活用	A	○△○	A	こども教育課
2 体験的・実践的な活動を通じた道徳性の育成	A	○○○	A	
3 地域の人材活用の推進	A	○○○	A	
(施策における取組の総括:担当課中間検証) 授業を核に、年間指導計画に基づいた取組ができている。教科化に向け、研修等により教師の指導力向上を図るとともに、家庭や地域との連携をさらに強化し、体験活動や地域人材活用の機会を増やし、学校教育全体はもとより家庭や地域と一体となった取組を計画・推進するよう、引き続き求めていく。				

施策 ㉚ 生命の尊厳を基盤にした人権教育	中間外部検証		年度末検証	所管課
	担当課	検証委員会	教育委員会	
1 人権尊重に基づいた学校文化構築に向けての研修の充実	A	○○○	A	こども教育課
2 いじめやインターネットによる人権侵害等、今日的な人権課題に対応した人権教育の充実	A	○○○	A	
3 人権尊重を基盤とした社会をめざす教育の推進と家庭・地域・関係機関との連携の推進	A	○○○	A	
(施策における取組の総括:担当課中間検証) 人権教育関係資料等を活用した校内研修を実施し、教職員の人権意識の高揚と指導力の向上をめざし取組を進めている。また、「ほほえみ」「きらめき」等を年間指導計画に位置付け、計画的に指導したり、NPO法人や県とも連携しながら外国にルーツを持つ子どもたちの支援を行ったりしている。今後も、さらに家庭・地域・関係機関と連携し、人権教育の充実・深化が図れるよう指導の改善を行いながら取組を進めていく必要がある。				

施策④ コウノトリを核とした環境教育	中間外部検証		年度末検証	所管課
	担当課	検証委員会	教育委員会	
1 地域の実態に応じた環境教育の充実	A	〇〇〇	A	こども教育課
2 『いのち』について学ぶ「生きもの共生の日」(5月20日)の取組の充実	A	〇△〇	A	
(施策における取組の総括:担当課中間検証) 今年度から本格的に実施しているふるさと教育との関連も図りながら、総合的な学習の時間等の学習に環境教育を位置づけ、子どもたちが、ふるさとの環境のすばらしさや課題について学ぶ学習を進めている。そして、自然に対する豊かな感性や命を尊ぶ心を育てている。今後も、さらにふるさと教育との関連を図り、体験を通して発見したふるさとの魅力について、自分の言葉で語り誇れる子どもの育成に努める。				

施策⑤ グローバル化に対応した教育	中間外部検証		年度末検証	所管課
	担当課	検証委員会	教育委員会	
1 情報モラルの育成	A	〇〇〇	A	こども教育課
2 学校・地域で学ぶことのできる文化や伝統を大切に活動の推進	A	〇〇〇	A	
3 大韓民国・アメリカ合衆国・モンゴル国との友好親善交流の実施	B	〇〇〇	C	こども教育課/文化振興課
4 子どもたちが豊岡で世界と出会う音楽祭の開催	A	〇△〇	A	生涯学習課
(施策における取組の総括:担当課中間検証) 社会のグローバル化に向け、全ての学校で情報モラル教育を行い、情報社会で適正な活動を行うための基になる考え方と態度の育成に努めている。また、ふるさと学習や他国の歴史や文化を学ぶ機会を通して、豊岡の魅力だけでなく、異文化についても理解を深めるようにしている。今後も、ふるさとや他国の優れた芸術等、本物に触れる体験を大切に、広い視野で物事を考えられる子どもの育成に努める。				

施策⑥ 過去の災害の教訓を踏まえた防災教育	中間外部検証		年度末検証	所管課
	担当課	検証委員会	教育委員会	
1 関係機関・地域と連携した防災訓練の実施	A	〇〇〇	A	こども教育課
2 災害対応マニュアルの不断の見直し	A	〇〇〇	A	
3 過去の災害を踏まえた防災・減災授業の実施	A	〇〇〇	A	
(施策における取組の総括:担当課中間検証) メモリアルデーの取組を核に、計画的な取組ができています。児童生徒の市民総参加訓練への参加体制を整えるための調整も行った。今後も、さらに地域や関係機関等との連携を図ること、課題意識を持って取組を継続することにより、防災教育・防災体制の一層の充実を図る。				

施策⑦ 豊かな人間関係の構築	中間外部検証		年度末検証	所管課
	担当課	検証委員会	教育委員会	
1 子どもと心でつながる市民運動の推進	B	△〇〇	B	生涯学習課
2 とよおか家族の日(10.8)及びとよおか家族の月間(10月)の取組強化	B	—△〇	C	
(施策における取組の総括:担当課中間検証) 日本の若者(20代)は世界一チャレンジしないという結果があり、なお人のかかわりが苦手な子どもたちが増えている状況がみられる。あえていろいろなタイプの大人たちと関係性を持つ体験など将来豊かな人間関係の構築に寄与する取組を行う必要がある。 子どもと心でつながる市民運動推進協議会を主体とした全市的な取組として、地域ぐるみで青少年を非行から守り、健全な育成を図るため、家庭、地域、学校、行政が連携して子どもたちをサポートする体制を継続していく。一斉ラジオ体操、お祭りをはじめとする地区行事への中学生の参加を促進するなど、子どもたちが地域の中で役割を持って活動し、大人たちとのコミュニケーションを図るきっかけづくりを進めていく。 また、「家族の日」の啓発活動により、家庭で厳しさと愛情をもって子どもと向き合うことで家庭内でのコミュニケーション増加を啓発していく。				

指標

『いじめはどんな理由があってもいけないことだ』という児童生徒の割合』について、「いじめはいけない」ということは、だれでも理解しているが、「どんな理由があっても」の記述があることで、目標値に至らなかったのではないかと推察する。「いじめはどんな理由があってもいけない」と言える、そんな教育をお願いしたい。

施策㉗-6

本年度の新規事業である小学校2年生を対象として実施する「参加型演劇」は、どのような効果があるのか未実施のため、測りえない。有益なものであることを期待したい。

施策㉘㉙

道徳、人権教育は、命にかかわるとても大切な教育である。道徳心、規範意識の習得には、家庭のしつけはもちろん周囲の大人の正しいかかわりが大切である。保育園・幼稚園に入ると周りの教諭やいろんな方々のかかわりが大切と考える。拡充・継続推進をお願いしたい。

施策㉚-1

「豊岡市地域道徳教材」は豊岡市独自で作られたものだが、今後道徳が教科化になり、新しい教科書が使われる中で、学校としては大きく変わる。その中で、豊岡市地域道徳教材の位置付けを明確にしていく必要がある。この教材をいかに活用するか、今後の課題であり、来年度に向けこれからの取組の検証が必要と考える。

施策㉛

インターネットは多くの小中学生が利用しており、今や「使わせない」ことより、いかに「正しく使用させるか」が大切である。大人よりも子どもたちの方が、機器にははるかに詳しい。「人の心も自分の心も傷つけてはならない」「安易な気持ちで使用してはならない」人権教育の充実をお願いしたい。

施策㉜-1

コウノトリも住める豊岡はすばらしい環境であるが、私たちには当たり前になっている。その当たり前がすばらしいことに気付く、再認識することのできる環境教育をお願いしたい。

施策㉜-2

「生きもの共生の日」は市全体としてどのように有効に機能しているのか見えない部分が多い。このような日を指定するというのは特色ある取組だと思うので、市全体の動きとして定着しているのか検証していただきたい。

施策㉝

グローバル化に向けて、語学力、コミュニケーション能力を向上させることは不可欠であり、英語教育については学びの場の充実を期待する。また、自分の意見が堂々と言えるようになるための教育、環境が必要である。自分の意見が自由に言え、ここが自分の居場所なんだと思えるクラスづくりをお願いしたい。

いじめの定義も踏まえ、相手がいやだと感じることをしない、そのためにも相手を思いやることの大切さを学ばせていくことを大事にしたいと考えています。

どの公演においても子どもたちが積極的に手をあげて発言する様子が見られました。また、アンケートでは、先生、児童ともに好評で、終演後も引き続きサンタクロースの存在について話し合う子どもがいたとの記述もありました。

事業を通して、子どもたちが自分で意見を考え、議論する機会を提供できたと考えています。

授業の時間を要に、生活のあらゆる機会に実体験を通して学べるよう、引き続き道徳教育、人権教育の充実を図っていきます。

授業に限らず、道徳教育全体における活用についての検証、検討のために、学校での活用状況を把握するよう努めます。

関係機関と連携した情報モラル教育や研修を行い、今後もインターネットによる人権侵害等に対応した人権教育の充実を図っていきます。

ふるさと教育とも関連させながら、地域の「ひと・もの・こと」から学ぶ環境教育の充実を図り、豊岡の素晴らしさを再認識できるよう取り組んでいきます。

「生きもの共生の日」の定着について、各校における取組状況を把握するよう努めます。

今後も「ローカル&グローバル学習の時間」の充実を図るため、授業実践をさらに重視して取組を進めます。

施策④-4

豊岡で世界と出会う音楽祭の開催については、文化振興で大きな役割を担っており大変素晴らしい事業で意義もあり取組が悪いわけではない。しかし、本物に触れる体験は市民会館の事業であるお出かけ訪問コンサートと重複するところもあり、他の必要な事業に振り向けることも考えられる。

例えば、グローバル化に対応するため、ALTの増員や特別支援教育の介助員など学校現場が求めていることに、配分できないか考えることも必要である。

小学校英語教科化に向け、ALTの配置の充実、また、特別な支援を要する子ども達の増加に伴い、ALTや介助員の増員を検討していきます。

施策⑤-3

豊岡市の未曾有の大水害平成16年の台風23号から13年が経過したが、水害を知らない保護者も少なくなく、伝え継ぐことの大切さを感じる。意識して伝えていかなければ、途絶えてしまう。過去の災害を教訓にして、一層の充実をお願いしたい。

今後も、全学校園でメモリアルデー防災・減災授業を実施し、過去の教訓を継承していくことで、防災教育の充実を図っていきます。

施策⑥-2

とよおか家族の日は浸透していない実感がある。本校でも職員会議や職朝で話をするが、市全体がそのような動きになっていない。一つのムーブメントようにならない限り、劇的な変化は無いと考える。民間企業と一体となって取り組んで、初めて意味ある取組になると考える。

とよおか家族の日、家族の月間については、廃止を希望する。現状を考慮すると、継続は無意味である。

とよおか家族の日については、小さなことからでも取り組んでいけば、きっかけづくりとしては効果があると考えられる。

今後の取組についての議論を始めています。現状を十分に把握し、家庭教育の推進方法について調整を図っていきます。

〔基本的方向における総括:教育委員会年度末検証〕

子どもたちに、ふるさとの「ひと・もの・こと」に学び、ねばり強く挑戦する力、また、全ての命に共感する力及び人と肯定的に関わる基本的な態度を身に付けさせるために、引き続き、発達段階に応じた体験的・実践的な活動を重視する。そのため、ふるさと学習や環境教育、人権教育や防災教育等で地域や関係機関と連携した学習機会の充実を図っていく。

第3次とよおか教育プラン(豊岡市教育振興基本計画)

平成29年度実践計画検証総括シート

基本方針 1	夢実現力を育む教育の推進
基本的方向 3	「からだの力」の育成
	子どもたちに、心と身体の健康と安全を主体的につくり出し、維持する力を身に付けさせることが重要である。 このため、②全国体力・運動能力等調査の結果等を踏まえた体力・運動能力の向上、①望ましい食習慣の形成を図る食育、③心身の健康課題に適切に対応する健康教育等に取り組む。

〔指標の検証〕

指標名	H28現状値(目標差)	H29目標値(前年差)	H29指標の実現状況
<input type="checkbox"/> 新体力テストにおける小学校5年生と中学校2年生の体力合計点のT得点	小5男 51.6(+1.6) 小5女 52.2(+2.2)○ 中2男 50.7(+0.7)○ 中2女 50.3(+0.3)○ 【全国平均値 50】	全国平均以上 (T得点50以上)	小5男 52.3(+2.3)○ 小5女 52.2(+2.2)○ 中2男 50.9(+0.9)○ 中2女 50.0(±0) 【全国平均値 50】
<input type="checkbox"/> 体育の授業は楽しいと思う児童生徒の割合	小 94.8%(-0.2)○ 中 90.0%(-3.0)○	小 95%以上 中 93%	小 93.5%(-1.5) 中 90.0%(-3.0)○
<input checked="" type="checkbox"/> 朝食を毎日食べる児童生徒の割合	小 90.2%(-2.8)○ 中 84.0%(-5.0)	小 93% 中 89%	小 89.4%(-3.6) 中 85.4%(-3.6)○

■・・・全国学力・学習状況調査の児童生徒質問紙を用いて評価を行う指標。

□・・・各所管課の事業や独自調査などの結果により評価を行う指標。

※ 全国学力・学習状況調査【平成29年4月18日実施】

国・公・私立学校の小学6年生と中学3年生を対象に実施する、国語、算数・数学、理科の教科に関する調査及び生活習慣や学習環境等に関する調査。(4月実施、8月結果公表)

※ H28現状値のうち、()内は対H28目標差を、○印はH28現状値よりも改善した指標を表す。

※ H29目標値のうち、()内は対前年差を表す。

※ H29指標の実現状況のうち、()内は対H29目標差を、○印はH28現状値よりも改善した指標を表す。

教育委員会 (担当課) 検証 (取組の継続等)	S 目標達成・取組完了 (目標達成、事業計画完了による取組終了)	検証委員検証 (担当課評価の妥当性)	○ 妥当
	A 継続実施 (拡充・現行方法による継続実施)		△ 疑義あり
	B 改善実施 (取組の改善・見直しによる継続実施)		— 評価不能
	C 抜本的見直し (取組を継続する場合は抜本的な見直しが必要)		
	D 取組廃止 (効果・必要性等から取組を廃止)		

〔施策と取組の自己検証〕

施策⑦ 全国体力・運動能力等調査の結果等を踏まえた体力・運動能力の向上	中間外部検証		年度末検証	所管課
	担当課	検証委員会	教育委員会	
1 「豊岡市版小学校体育準備運動」の共通実践と体育授業の充実	A	〇〇〇	A	こども教育課
2 新体力テストを活用した体力づくり運動の実施と体育・スポーツ活動の推進	A	〇〇〇	A	
3 各種体育大会の充実	A	〇〇〇	A	
(施策における取組の総括:担当課中間検証) 幼児期から系統的な指導を継続することは、子どもたちの体力や基礎的な運動能力の向上につながる。これまでの取組に加え、昨年度から全小学校で「運動と学習をセットにした豊岡モデル」を実践している。「からだの力」の育成の柱として定着と充実を図るため、成果と課題を整理しながら確実に実践を積み重ねていくことが重要である。				

施策⑧ 望ましい食習慣の形成を図る食育	中間外部検証		年度末検証	所管課
	担当課	検証委員会	教育委員会	
1 家庭や地域と連携した食に関する教育の推進 「食育の日」(毎月19日)、「弁当の日」の推進	A	〇〇〇	A	こども教育課
2 食に関する指導の充実	A	〇〇〇	A	
(施策における取組の総括:担当課中間検証) 「食育の日」や「弁当の日」、食育だよりの発行等を通して、家庭と連携した食に関する指導を行っている。また、栄養教諭や給食センターの協力のもと、地域の食材を扱った体験的な活動も行っている。引き続き、学校や園の教育活動全体を通して、取組を推進し、食に関する教育の充実を図りたい。				

施策⑨ 心身の健康課題に適切に対応する健康教育	中間外部検証		年度末検証	所管課
	担当課	検証委員会	教育委員会	
1 発達段階に応じた健康教育の推進	A	〇〇〇	A	こども教育課
2 関係機関と連携した各種講習会の推進	A	〇〇〇	A	
3 規則正しい生活習慣の確立	A	〇〇〇	A	
(施策における取組の総括:担当課中間検証) 多様化、深刻化している心身の健康問題を解決するために、児童生徒が正しい知識を身につけ、自分の課題に気づいたり、適切な対処の仕方を身につけたりする等の指導を行っている。これからも専門機関等と連携した研修や指導を行うとともに、家庭やPTAとも協力して、健康教育の充実を図っていく。				

〔中間外部検証意見〕

〔年度末教育委員会検証〕

施策⑦-1

幼稚園、認定こども園等での運動遊びは各園での日々の実践も定着している。幼児期から小学校へとつながる「豊岡市版小学校体育準備運動」は園でも取り組んでいる。より一層充実し、継続した取組を重ねていただきたい。

施策①

食育だよりは大変分かりやすい内容で、保護者にも好評である。職員も一緒に勉強させていただいている。引き続き充実した取組をお願いしたい。

施策①-2

食に関する指導では、栄養士・養護教諭の方が園に来て食育・保健指導等子どもたちに分かりやすく話をさせていただいている。昨年まで年1回であったが、今年は2回に増え、より充実してきた。職員も勉強させていただき、日々の指導に役立っているの、現場としてありがたい。

取組の更なる定着と充実を図っていきます。

今後も、学校、家庭、地域が連携した取組となるよう、その充実を図っていきます。

引き続き、給食センターや栄養教諭等との連携を図り、より充実した食育を推進していきます。

〔基本的方向における総括:教育委員会年度末検証〕

子どもたちに、心と身体の健康と安全について考え、自らの判断で自分の健康と安全を維持する力を身に付けさせるために、幼児期からの系統的な取組を継続する。また、家庭と緊密に連携し、取組の充実を図っていく。

第3次とよおか教育プラン(豊岡市教育振興基本計画)

平成29年度実践計画検証総括シート

基本方針 1	夢実現力を育む教育の推進
基本的方向 4	「あたま・こころ・からだの3つの力を支える基礎力」の育成
	子どもたちに、夢実現力の基礎力の育成期にあたる乳幼児期において、肯定的な言葉と行動を基盤とした関わり方により、人や物事へ自分から関わる意欲、健全な生活を営むために必要な態度、基本的な生活習慣等を育成することが重要である。 このため、㊦健康な体をつくる運動遊び、㊧基本的な生活習慣の確立、㊨身近な環境への好奇心や探究心の育成、㊩人の話を聞き、自分の思いを言葉で表現する力の育成、㊪様々な体験活動等に取り組む。

〔指標の検証〕

指標名	H28現状値(目標差)	H29目標値(前年差)	H29指標の実現状況
<input type="checkbox"/> 体を動かして遊ぶことが好きな園児の割合	98.9%(+0.1)○	H26現状値(98.8%)を下回らない	98.9%(+0.1)○
<input type="checkbox"/> 友だちと遊ぶことが好きな園児の割合	99.4%(-0.5)	H26現状値(99.9%)を下回らない	99.4%(-0.5)○
<input type="checkbox"/> 午後9時までに就寝する園児の割合 ※H29から、調査における回答の選択肢を一部変更	56.8%(-10.2)○ (10時まで97.1%)	67%	37.4%(-29.6%) (9時30分まで78.3%) (10時まで96.9%)
<input type="checkbox"/> 毎日朝食を食べている園児の割合	94.5%(-0.5)○ (ほぼ毎日99.5%)	95%	94.2%(-0.8%) (ほぼ毎日98.8%)
<input type="checkbox"/> 毎週1回以上、家庭で絵本の読み聞かせをしている家庭の割合	71.8%(-4.2) (3回以上38.9%)	76%	67.9%(-8.1%) (3回以上38.8%)
<input type="checkbox"/> 幼稚園・保育園・認定こども園に行くことが楽しいと思っている園児の割合	98.6%(-0.2)○	H26現状値(98.8%)を下回らない	98.3%(-0.5)
<input type="checkbox"/> 「おはよう」などのあいさつや「ありがとう」のお礼が言える園児の割合	92.3%(-0.2)	H27現状値(92.5%)を下回らない	92.7%(+0.2)○
<input type="checkbox"/> 家で遊んだ後に、おもちゃなどの片付けができる園児の割合	65.6%(-1.0)	H27現状値(66.6%)を下回らない	66.0%(-0.6)○

■・・・全国学力・学習状況調査の児童生徒質問紙を用いて評価を行う指標。

□・・・各所管課の事業や独自調査などの結果により評価を行う指標。

※ 全国学力・学習状況調査【平成29年4月18日実施】

国・公・私立学校の小学6年生と中学3年生を対象に実施する、国語、算数・数学、理科の教科に関する調査及び生活習慣や学習環境等に関する調査。(4月実施、8月結果公表)

※ H28現状値のうち、()内は対H28目標差を、○印はH28現状値よりも改善した指標を表す。

※ H29目標値のうち、()内は対前年差を表す。

※ H29指標の実現状況のうち、()内は対H29目標差を、○印はH28現状値よりも改善した指標を表す。

教育委員会 (担当課)検証 (取組の継続等)	S	目標達成・取組完了 (目標達成、事業計画完了による取組終了)	検証委員会検証 (担当課評価の妥当性)	○	妥当
	A	継続実施 (拡充・現行方法による継続実施)		△	疑義あり
	B	改善実施 (取組の改善・見直しによる継続実施)		—	評価不能
	C	抜本的見直し (取組を継続する場合は抜本的な見直しが必要)			
	D	取組廃止 (効果・必要性等から取組を廃止)			

〔施策と取組の自己検証〕

施策 ㉗ 健康な体をつくる運動遊び	中間外部検証		年度末検証	所管課
	担当課	検証委員会	教育委員会	
1 幼児期における運動遊びの推進	A	〇〇〇	A	こども育成課
2 親子のふれあい活動の推進	A	〇〇〇	A	

(施策における取組の総括:担当課中間検証)
運動遊び事業が根付き、運動習慣の定着化が図られてきている。引き続き、特色ある豊岡の保育・教育の根幹を担う取組の一つとして、各園の伝統や特色を生かし、さらに発展・充実させられるよう進めていきたい。

施策 ㉘ 基本的な生活習慣の確立	中間外部検証		年度末検証	所管課
	担当課	検証委員会	教育委員会	
1 生活リズムの定着の推進	A	〇〇〇	A	こども育成課
2 幼児期の基本的な生活習慣の定着	A	〇〇〇	A	
3 食育の推進	A	〇〇〇	A	

(施策における取組の総括:担当課中間検証)
規則正しい生活リズム定着を目指したアンケートの実施、園だより等での啓発を各園において継続的に行っている。このことにより、生活を見直すことができる家庭と、そうでない家庭とがある。全家庭が意識できるような啓発方法を考えなければならない。

施策 ㉙ 身近な環境への好奇心や探究心の育成	中間外部検証		年度末検証	所管課
	担当課	検証委員会	教育委員会	
1 自然・ふるさと体験の充実	A	〇〇〇	A	こども育成課
2 動物の飼育や野菜などの栽培活動の推進	A	〇〇〇	A	

(施策における取組の総括:担当課中間検証)
直接体験による感動は、自然と関わるなかでの自主的活動、協同作業から生まれてくる実感は皆が持っており、園外活動、小動物飼育などは継続して積極的に行っている。これまで「自然体験マップの活用」を項目としてきたが、これを更新・活用すること自体を目的とせず、手段の一つとして、これまで同様、人・自然・小動物などとの直接的関わりによる体験活動の一層の充実に努めたいと考えている。

施策 ㉚ 人の話を聞き、自分の思いを言葉で表現する力の育成	中間外部検証		最終検証	担当課
	担当課	検証委員会	担当課検証	
1 絵本の読み聞かせの推進	A	〇〇〇	A	こども育成課
2 話す力・聞く力の定着	A	〇〇〇	A	
3 感じたことや考えたことを表現する力の育成	A	〇〇〇	A	

(施策における取組の総括:担当課中間検証)
地域の読み聞かせボランティアの方々のかも借りながら読み聞かせの推進が行われており、活動として定着しつつある。これを基に、聞く力、想像する力などが育まれてきており、人の話を聞く姿勢が随分意識できるようになってきた。反面、話を聞いて感じたこと、考えたことを表現する力はまだ育ちつつある過程であり、今後、保育の中での配慮が必要である。また、話すという力に関して、地域性(小規模園)による差異を感じている園もある。子ども一人一人に寄り添い、感情を表現しやすい環境づくりや援助を図っていく。

施策 ㉛ 様々な体験活動	中間外部検証		年度末検証	所管課
	担当課	検証委員会	教育委員会	
1 就学前の教育・保育計画「スタンダード・カリキュラム」や「すくすくプログラム-5つの育てたい力-」を基本にした就学前教育の充実	A	〇〇〇	A	こども育成課
2 様々な体験活動の積み重ねと社会的ルールの育成	A	〇〇〇	A	
3 周囲の大人や子どもと関わる力の育成	A	〇〇〇	A	
4 英語遊び保育の推進	A	〇〇〇	A	

(施策における取組の総括:担当課中間検証)
平成27年度からスタンダード・カリキュラムとすくすくプログラムを活用した公開保育の実施後に参加者による事後研修を進めてきた。参観する中で、自分の気付き、思い、保育に対する考えなどを発言し、皆で共有することにより、保育を公開した保育者だけでなく、参加者全員が互恵的に学び合える機会となってきた。また、回を重ねることにより、保育の質の向上も感じる。
また、英語遊び保育事業を今年度(H29)から全市のに展開している。子ども達は笑顔で楽しく、遊びを通して英語を経験できており、引き続き、事業の定着に向けた取組を推進していきたい。

基本的方向全般

個票の「自己評価の理由」に記載されている内容は、現在各園で取り組んでいる。今後も継続し、より充実させていただきたい。妥当な検証だと考える。

施策⑦-1

運動遊びは、幼児の運動に対する興味・関心や保育者の指導力も身に付き定着している。こども園では、3～5歳児の活動を模倣して、3歳未満の子も関心を持って体を動かす姿が見られる。引き続き、園全体で積極的に取り組んでいきたい。

施策①

基本的な生活習慣の定着では、幼児期の生活習慣について、保護者にどんな生活リズムを求めているのかを具体的に伝えていただきたい。例えば、朝ごはんを食べることが必要だと伝えたいなら、なぜ必要なのか理由も伝えなければ、保護者の意識は変わらない。具体的な理由も合わせて情報を発信することが必要ではないかと考える。

施策②

自然体験マップの活用については、動物とふれあうためには必要なものであるが、クマやヘビやハチなどに遭遇した時にどう対処するかを教えることも必要ではないか。ハチの被害でいたましい事故も発生しているので、そのような発信もお願いしたい。

施策④-4

英語遊び保育では、月に1・2回程度巡回訪問指導が実施されている。オールイングリッシュで言葉がわからないながらも、回数を重ねるごとに指導の先生に打ち解け、楽しく取り組んでいる。言葉がわからないからこそ、相手をよく見て、よく聞いて行動することが求められ、コミュニケーション力をつける良い機会になっていると考える。園だよりや行事の際に、英語遊び保育のねらいは、決して早期教育ではなく言葉のおもしろさやコミュニケーションの楽しさを味わうことであると伝えているが、担当課からもねらいについて啓蒙をお願いしたい。

今後も引き続き、子どもたち一人一人に寄り添い、各園の教育・保育の質向上に努めます。

「からだ」の力は、「こころ」「あたま」の力の育成と非常に密接な関係があります。引き続き、重要な取組と位置づけ、取り組んでいきます。

各園で発行している園だよりや、教育委員会からの保健だよりなどを通じて、具体的な理由も含めて啓発を行っており、引き続き、情報発信に努めます。

安心・安全な園生活を保障しながら、引き続き、豊かな自然体験ができるよう努めます。

英語遊び通信を発行しており、当該事業のねらいについて継続的に情報発信していきます。

〔基本的方向における総括:教育委員会年度末検証〕

運動遊びについては、「からだ」だけでなく「こころ」と「あたま」の力とも密接な関係がある。これまでの実体験なども踏まえ、日常保育において安定的に取り組まれてきている。引き続き、主体的かつ自発的な活動としての遊びとなるよう質の向上に努めたい。

また、英語遊びについては、平成29年度から全市的に展開してきた。英語の早期教育ではなく、自己肯定感を高めたり、人と積極的にコミュニケーションを図ろうとする気持ちを育んだりすることにつながるよう継続的に努めていきたい。

なお、様々な体験活動や、人・物事に自分から関わろうとする「意欲」を育むには、基本的生活習慣の定着が非常に重要である。引き続き、園だより等による啓発を行うほか、PTA事業などの親子で参加する行事等で睡眠の大切さなどの情報発信に努め、園と家庭で連携して定着を図っていく。

第3次とよおか教育プラン(豊岡市教育振興基本計画)

平成29年度実践計画検証総括シート

基本方針 1	夢実現力を育む教育の推進
基本的方向 5	特別支援教育の充実
	<p>特別支援学級のみならず、通常の学級に在籍するLD、ADHD等を含めた特別な支援が必要な子どもたちの能力や可能性を最大限に伸ばし、自立し社会参加するために必要な力を培うことが重要である。</p> <p>このため、インクルーシブ教育システム構築を見据えた障害のある子ども一人一人の教育ニーズに対応した「兵庫県特別支援教育第二次推進計画」に基づき、㊦発達特性の理解と早期からの一貫した支援、㊧共に学ぶことで豊かな人間性を育む交流及び共同学習、㊨保護者支援等に取り組む。</p>

〔指標の検証〕

指標名	H28現状値(目標差)	H29目標値(前年差)	H29指標の実現状況
<input checked="" type="checkbox"/> 学校に行くのが楽しくないと思う児童生徒の割合	小 12.9% (-7.9) 中 18.7% (-4.7) ○	小 5%以下 中 14%以下	小 11.8% (-6.8) ○ 中 17.0% (-3.0) ○
<input type="checkbox"/> 豊岡市こども支援センターが、子どもたちの適切な支援の在り方について連携した学校園の割合	100% (±0) ○	100%	100%(±0) ○

- ・・・全国学力・学習状況調査の児童生徒質問紙を用いて評価を行う指標。
- ・・・各所管課の事業や独自調査などの結果により評価を行う指標。

※ 全国学力・学習状況調査【平成29年4月18日実施】

国・公・私立学校の小学6年生と中学3年生を対象に実施する、国語、算数・数学、理科の教科に関する調査及び生活習慣や学習環境等に関する調査。(4月実施、8月結果公表)

※ H28現状値のうち、()内は対H28目標差を、○印はH28現状値よりも改善した指標を表す。

※ H29目標値のうち、()内は対前年差を表す。

※ H29指標の実現状況のうち、()内は対H29目標差を、○印はH28現状値よりも改善した指標を表す。

教育委員会 (担当課)検証 (取組の継続等)	S 目標達成・取組完了 (目標達成、事業計画完了による取組終了)	検証委員検証 (担当課評価の妥当性)	○ 妥当
	A 継続実施 (拡充・現行方法による継続実施)		△ 疑義あり
	B 改善実施 (取組の改善・見直しによる継続実施)		— 評価不能
	C 抜本的見直し (取組を継続する場合は抜本的な見直しが必要)		
	D 取組廃止 (効果・必要性等から取組を廃止)		

〔施策と取組の自己検証〕

施策 ㉗ 発達特性の理解と早期からの一貫した支援	中間外部検証		年度末検証	所管課
	担当課	検証委員会	教育委員会	
1 豊岡市子ども支援センターの機能の充実	A	〇〇〇	A	子ども教育課
2 スーパーバイザー支援事業	A	〇〇〇	A	
3 校園内支援体制の充実	A	〇〇〇	A	
4 ニーズに応じた合理的配慮の提供	A	〇〇〇	A	
5 個別の教育支援計画の作成・活用の促進	A	〇〇〇	A	
6 個別の指導計画の作成・活用の促進	A	〇〇〇	A	
7 教職員の専門性向上をめざした実践的研修の推進	A	〇〇〇	A	
8 就学指導のための教育相談の充実(校園内及び各関係機関)	A	〇〇〇	A	
9 卒業後までを見通した教育的支援・指導の引継ぎの推進	A	〇〇〇	A	
10 介助員並びにスクールアシスタントの効果的な活用	A	〇〇〇	A	
11 保育園等巡回相談の実施	A	〇〇〇	A	子ども育成課

(施策における取組の総括:担当課中間検証)
 特別支援教育コーディネーター等すべての教職員の専門性の向上をめざし、特別支援教育に関する研修を行っている。豊岡市子ども支援センターと各校園、関係機関が連携し、要支援園児・児童・生徒の早期発見と情報共有を行い、迅速に対応している。

施策 ㉘ 共に学ぶことで豊かな人間性を育む交流及び共同学習	中間外部検証		年度末検証	所管課
	担当課	検証委員会	教育委員会	
1 交流及び共同学習の推進	A	〇〇〇	A	子ども教育課
2 地域における交流会の実施	A	〇〇〇	A	

(施策における取組の総括:担当課中間検証)
 特別支援学級在籍の児童生徒の自立をめざし、交流及び共同学習や他校との交流会のねらいを明確にし、計画的、組織的に取り組んでいる。

施策 ㉙ 保護者支援	中間外部検証		年度末検証	所管課
	担当課	検証委員会	教育委員会	
1 子育てに関する相談を通して支援が必要な子どもの早期発見と保護者支援	A	〇〇〇	A	子ども育成課
2 就学に向けた相談支援の充実	A	〇〇〇	A	

(施策における取組の総括:担当課中間検証)
 子育てセンターや子ども支援センターにおいて、保護者からの育児・子育てから就学等に関する相談を受けている。
 就学に関する相談では、子ども支援センターで、必要に応じて発達検査等も実施し、子どもの特性を理解したうえで、学校・園と保護者と相談しながら、個別の支援方法を提案している。
 平成29年4月に設置された健康増進課およびこ支援室と5歳児発達相談などの情報共有と連携を図りながら、就学に向けて家庭を支援していく。

施策⑦-1

豊岡市子ども支援センターの設置は、学校にとっては大変有効である。
 年々、支援を要する児童生徒が増加しているなか、その子どもへの対応が大きな課題で、支援センターの存在は非常に大きいと考える。今後は、さらに支援センターと連携して取り組むことが増加していくと予想される。それだけに、臨床心理士の数が不足しているのではないかと想像する。すばやく学校に訪問していただき、児童の観察をし、検査をし、報告をしていただいている。その動きを見ると、数的にどうか、オーバーワークになっていないか懸念される。さらなる増員が必要ではないかと考える。

施策⑦-2

スーパーバイザー支援事業については、すべての学校に支援事業の取組を広げていくことが重要ではないかと考える。

施策⑦-10

厳しい財政の中で、介助員やスクールアシスタントを年々増員していただいていることは感謝しているが、現状ではまだまだ十分でない状況であることを理解していただきたい。学校現場は、複数の支援が必要な子を抱えて奔走しているのが実情で、多くの学校が困っている。人的配置の更なる増員を図っていくべきではないかと考える。

施策⑦-11

早期発見、早期対応と言われつつ、就学前には大きく焦点が当たっている中で3歳未満には手当てが薄いと感じている。こども園では、1号認定児には、1人の園児につき介助員がつくが、2号・3号認定児は、支援の必要な園児3人につき1人の保育士を加配という現状である。同じ園にいながら対応が異なる。すべての子どもに等しく支援をお願いしたい。保育園の巡回相談の実施では、2歳児も見ただけのように早期発見につながっている。

施策⑧-1

5歳児発達相談では、保護者の困り感を拾い上げてもらい、それを健康増進課や子ども支援センターの連携によって支援につながっている。保護者の想いを受け止めてもらえる機会として大切な位置付であると考え。
 この施策は、マイナス1歳児から15歳児までを基本とした施策であり、母子手帳をもらった時や何ヶ月健診の時に情報を提供しているが、なかなか情報が伝わらないものもあるため、積極的に情報発信していただきたい。

今後の保護者や学校園からの子どもの発達に関する相談等の推移をみながら、子ども支援センターの相談支援体制の充実に努めます。

多くの児童生徒を支援できるよう対象校の拡大に努めます。

今後も特別な支援を要する子ども達の教育的なニーズに対応できるよう、特別支援教育介助員・スクールアシスタント等の人的配置を検討します。

現在、幼稚園には介助員を、認定こども園、保育園には保育士加配を行っていますが、何れも十分な配置ができていません。今後も引き続き人員の確保に努めていきます。

また、「すくすく訪問支援事業」等については、平成29年度より全園児(0歳～5歳児)を対象を広げ、支援を必要とする子の早期発見・早期対応に努めています。引き続き、各園において適切な支援を実践できるよう取り組んでいきます。

5歳児発達相談では、個別の支援が必要と思われる場合には、保護者に園へ就学に向けて情報提供することの確認を取っています。

また、子ども支援センターと健康増進課が連携しながら、就学につなげるための相談支援の充実に努めます。

〔基本的方向における総括:教育委員会年度末検証〕

特別な支援が必要な子どもたちの能力や可能性を最大限に伸ばし、自立し社会参加するために必要な力を培っていけるよう、早期からの教育相談・支援・就学支援・就学後の適切な教育等に取り組んでいく。
 また、インクルーシブ教育システム構築を図るため、学校、家庭、地域がより理解を深め、一体となって取り組み、その取組について評価・検証していくよう努める。

第3次とよおか教育プラン(豊岡市教育振興基本計画)

平成29年度実践計画検証総括シート

基本方針 2	子どもたちの学びを支える仕組みの確立
基本的方向 1	学校園の組織力及び教職員の資質能力の向上
	<p>子どもの状況の変化や、保護者や社会からの要請が多様化・高度化する中で、学校園の組織力を向上させ、緊急・重大な事案等に教職員が一丸となって迅速に機動的にかつ的確に対応するとともに、子どもたちに夢実現力を育成する学校教育の専門家として保護者・地域に信頼される開かれた学校園づくりを進めることを視点とすることが重要である。また、教職員には、子どもたちに寄り添うことで、一人一人の個性や能力・可能性を伸ばし、育てるとともに、夢実現力の育成と様々な教育課題に適切に対応できるよう、資質向上に努め、心身の健康を保持することが求められている。加えて、体罰の防止にも取り組む必要がある。</p> <p>このため、㊦校園長のリーダーシップのもと教職員一人一人の力を組織的かつ機動的にいかしていく協働体制の確立、㊧いじめや暴力行為等の問題行動の未然防止、早期発見、早期対策、㊨授業力や多様な教育課題への対応力等教職員の資質と実践的指導力の向上等に取り組む。</p>

〔指標の検証〕

指標名	H28現状値(目標差)	H29目標値(前年差)	H29指標の実現状況
<input type="checkbox"/> 授業中に学習に対する児童生徒の興味・関心を高めるために、コンピューターや提示装置を活用して資料などを効果的に提示できる教職員の割合	小 [H27] 72.4% (-4.8) 中 [H27] 67.9% (-10.1)	小 77% 中 78%	小 [H29]85.9%(+8.9)○ [H28]78.1%(+1.1)○ 中 [H29]76.5%(-1.5)○ [H28]73.0%(-5.0)○
<input type="checkbox"/> 悩みを抱えたときに、誰にも相談しない児童生徒の割合	小 16.2% (-6.2) 中 14.7% (-2.7)	小 10% 中 12%	小 13.9% (-3.9)○ 中 15.4% (-3.4)
<input type="checkbox"/> 認知したいじめを解消させた割合	小・中 [H27] 100% (±0) ○	100%	小・中 [H28] 100% (±0) ○
<input type="checkbox"/> 不登校児童生徒の割合	小 [H27] 0.57% (-0.14) 【H27国平均 0.43%】 中 [H27] 2.33% (+0.62) ○ 【H27国平均 2.95%】	全国平均以下	小 [H29] 0.41%○ [H28] 0.48% (-0.01)○ 【H28国平均 0.47%】 中 [H29] 3.59%○ [H28] 4.02% (-0.88) 【H28国平均 3.14%】

■・・・全国学力・学習状況調査の児童生徒質問紙を用いて評価を行う指標。

□・・・各所管課の事業や独自調査などの結果により評価を行う指標。

※ 全国学力・学習状況調査【平成29年4月18日実施】

国・公・私立学校の小学6年生と中学3年生を対象に実施する、国語、算数・数学、理科の教科に関する調査及び生活習慣や学習環境等に関する調査。(4月実施、8月結果公表)

※ H28現状値のうち、()内は対H28目標差を、○印はH28現状値よりも改善した指標を表す。

※ H29目標値のうち、()内は対前年差を表す。

※ H29指標の実現状況のうち、()内は対H29目標差を、○印はH28現状値よりも改善した指標を表す。

教育委員会 (担当課)検証 (取組の継続等)	S 目標達成・取組完了 (目標達成、事業計画完了による取組終了)	検証委員会検証 (担当課評価の妥当性)	○ 妥当
	A 継続実施 (拡充・現行方法による継続実施)		△ 疑義あり
	B 改善実施 (取組の改善・見直しによる継続実施)		— 評価不能
	C 抜本的見直し (取組を継続する場合は抜本的な見直しが必要)		
	D 取組廃止 (効果・必要性等から取組を廃止)		

〔施策と取組の自己検証〕

施策 ㉗ 校園長のリーダーシップのもと教職員一人一人の力を組織的かつ機動的にいかしていく協働体制の確立	中間外部検証		年度末検証	所管課
	担当課	検証委員会	教育委員会	
1 管理職研修	A	〇〇〇	A	こども教育課
2 学校教育経営研修	A	〇〇〇	A	
3 小・中学校と関係機関との生徒指導に係る情報交換の推進	A	〇〇〇	A	
4 子どもと向き合う時間の確保	A	〇〇〇	A	
5 働きやすい職場環境づくり	A	〇〇〇	A	
6 学校評価の推進	A	〇〇〇	A	

(施策における取組の総括:担当課中間検証)

学校園の協働体制を確立するには、校園長のリーダーシップのもと、教職員一人一人の力を組織的かつ機動的にいかしていくことが重要である。また、多様な教育課題への対応力等、教職員の資質と実践的指導力の向上等に取り組む必要がある。このために、学校・地域・家庭の連携、学校と関係機関の連携の重要性は高まる一方である。そこで、教育活動のさらなる充実を図るために、教職員が時間的・精神的ゆとりをもって子どもたちと向き合う時間を確保できるよう、教育委員会として各学校園をサポートし、取組を継続・充実させていく必要がある。

施策 ㉘ いじめや暴力行為等の問題行動の未然防止、早期発見、早期対策	中間外部検証		年度末検証	所管課
	担当課	検証委員会	教育委員会	
1 いじめ防止基本方針に基づく、いじめの未然防止、早期発見・早期対応における組織的な対応の充実	A	〇〇〇	A	こども教育課
2 「不登校対策アクションプラン」の積極的な推進	A	〇〇〇	A	
3 不登校対策指導補助教員の配置	A	〇〇〇	A	
4 スクールカウンセラーによる相談支援事業の実施	A	〇〇〇	A	
5 「子どもの心を理解する強化月間」の充実	A	〇〇〇	A	
6 心理検査を活用した生徒指導の充実	A	〇〇〇	A	

(施策における取組の総括:担当課中間検証)

個々の教員の資質の向上と組織的な対応のための体制強化が最重要課題である。各校、各小中一貫ブロックにおける取組の検証と見直しを行い、課題を明確にし、取組や研修の内容等に反映させるよう学校に求めていく。また、不登校担当者研修会等、各校や各小中一貫ブロックの取組について成果等を交流する機会を定期的に設けることなどにより、対策の充実を図っていく。

施策 ㉙ 授業力や多様な教育課題への対応力等教職員の資質と実践的指導力の向上	中間外部検証		年度末検証	所管課
	担当課	検証委員会	教育委員会	
1 授業づくりと学級づくりの一体化の質的向上	A	〇〇〇	A	こども教育課
2 児童生徒理解に基づく生徒指導の推進と対応能力の向上	A	〇〇〇	A	
3 校内研修担当者研修	A	〇〇〇	A	
4 教職員の研修ニーズに対応する研修	A	〇〇〇	A	
5 初任者及び2年次・3年次研修	A	〇〇〇	A	
6 豊岡市中学校教育研究会・教科部会の充実	A	〇〇〇	A	
7 児童生徒及び教職員のICT活用能力の向上	A	〇〇〇	A	
8 民間企業等における社会体験を行う「先生のトライやる」の実施	A	〇〇〇	A	

(施策における取組の総括:担当課中間検証)

若手教職員の割合が高くなっている現状から若手教職員の力量の向上を図ることが求められている。特に、新採用から2・3年目の教職員の研修の充実を図ることが必要である。そこで、その層における研修体制の充実を図る一環として、授業参観及び授業の事実に基づいた事後研修に取り組んでいる。

また、教職員が自ら学び続け、資質の向上に努められるよう、教職員の研修ニーズに対応した研修会を開催するとともに、学び合うことができる実践的な研修を行う等、研修内容の充実が重要である。

基本的方向全般

働きやすい職場環境、勤務時間の適正化が学校現場の一つの課題である。計画的に年休を取得されようとしているが、普段は難しく、長期休業期間に取得している状況である。今年度は、お盆を学校閉庁日とする取組をさせていただいた。その期間の前後に職員の研修が入らなければ計画的に年休が取れる状態となる。休む時には気兼ねなく休めるよう調整を図られたい。

施策㊦-4

勤務時間の適正化については、教員は、種々雑多な仕事があり、定期退職日を指定しても現実はかなり難しく、抜本的な整備が必要と考える。校務支援システム等を導入し教職員が分担している業務の効率化を図られるよう、積極的に校務支援システムの導入を検討していただきたい。また、サポートできる体制整備を希望する。

施策㊧-4

スクールソーシャルワーカーの学校への配置について、スクールカウンセラーはすでに学校に入っていて各学校で活用されているが、スクールソーシャルワーカーがこれからどういう形で活用できるのか、研修や検証が必要と考える。

県は全ての中学校区にスクールソーシャルワーカーを配置する方向性を打ち出しているが、配置されているスクールソーシャルワーカーの動きがわからない。有効活用が図られていないのであれば検証が必要であると考え。

施策㊨-1

授業づくりについて、豊岡は小規模な学校が増え、学校で同学年を受け持つ先生同士の相談ができない現状である。授業づくり、学級づくりの研修を通して相談できる場にもなることを考えると、研修の意義は大変大きいと考えられる。より充実していただきたい。

施策㊩-7

ICT活用については、長年待ち焦がれたタブレットが導入された。タブレットが入ることによって授業がガラッと変わり、今まであまり触ったことが無かったICT機器を多くの先生方が授業で活用している。あるソフトの説明を受け、活用の幅が広がると確信した。実践活動を持つ先生方の交流が必要で活用方法をさらに広げていく機会を確保していただきたい。

施策㊪-8

「先生のトライやる」の目的を考えると、研修先は、民間企業がふさわしいと考える。

「先生のトライやる」が導入された趣旨をよく検討していただきたい。公的機関で研修することが本当に教員の資質向上につながるのか、人間の幅を広げることができるのか。民間企業に入って初めて「この視点は教育と共通するな」など、いろんな学ぶ点が多いのは民間企業ではないかと考える。緊張感を持って研修しないと意味がないので、原則ではあるが、民間企業で研修できるよう図られたい。

平成29年12月に策定した「学校における働き方改革」推進方針に基づき、①在校時間の適切な把握と意識改革の推進、②業務の見直しと業務改善の推進、③教員を支える人員体制の確保、④部活動の負担軽減の推進の4つの方向性で取組を推進していきます。

平成30年度中に全小中学校に統合型校務支援システムを導入し、平成31年度完全運用開始を目指して取組を推進していきます。

スクールソーシャルワーカーの効果的な活用のあり方について模索している段階にあります。研修や実践、検証を重ね、豊岡市なりの活用のあり方を考えていく必要があります。

今後も貴重な研修の機会と捉え、小学校長会と連携しながら、授業実践を中心にした研修として実施していきます。

情報教育推進委員会を中心に、教職員の研修のやり方について考え、指導者のスキルアップに努めていきます。

今後も本事業の目的を踏まえ、研修内容の充実を図ります。

〔基本的方向における総括：教育委員会年度末検証〕

子どもの状況の変化、多様化・高度化する社会や保護者からの要請に対応するため、教職員が丸々となつて組織的に対応するとともに、迅速、かつ的確に対応する体制づくりを行う。子どもたちの夢実現力を育成する学校教育の専門家として、子どもたちに寄り添い、一人一人の個性や能力・可能性を伸ばし育てるとともに、様々な教育課題に適切に対応できるよう教職員の資質の向上を図る。

また、子どもと向き合う時間を確保するため、更なる業務改善、事業等の見直しを進めるとともに、教職員の意識改革を図る。

第3次とよおか教育プラン(豊岡市教育振興基本計画)

平成29年度実践計画検証総括シート

基本方針 2	子どもたちの学びを支える仕組みの確立
基本的方向 2	安全・安心な教育環境の整備
	子どもたちが安心して学校園生活を送るため、安全で質の高い教育環境の整備が重要である。 このため、⑦学校園及び給食センターの安全対策やICT環境等の教育環境の整備・充実、⑧様々な困難や課題を抱える子どもたちに対する教育の機会を確保するための就学支援等に取り組む。

【指標の検証】

指標名	H28現状値(目標差)	H29目標値(前年差)	H29指標の実現状況
<input type="checkbox"/> 吊り天井等の落下防止対策(屋内運動場・武道場)の実施率(小・中学校)	64%(7校)(±0)○	100%(11校)(+36)	100%(11校)(±0)○
<input type="checkbox"/> 小・中学校PCのタブレット導入	小62%(18校)(±0)○ 中11%(1校)(±0)○	小100%(8校)(+28) 中11%(1校)	小100%(8校)(±0)○ 中11%(1校)(±0)
<input type="checkbox"/> 学校給食において地場産物を使用する割合	[H28] 22.0%(-8.0)	30%以上	25.2%(-4.8)○

■・・・全国学力・学習状況調査の児童生徒質問紙を用いて評価を行う指標。

□・・・各所管課の事業や独自調査などの結果により評価を行う指標。

※ 全国学力・学習状況調査【平成29年4月18日実施】

国・公・私立学校の小学6年生と中学3年生を対象に実施する、国語、算数・数学、理科の教科に関する調査及び生活習慣や学習環境等に関する調査。(4月実施、8月結果公表)

※ H28現状値のうち、()内は対H28目標差を、○印はH28現状値よりも改善した指標を表す。

※ H29目標値のうち、()内は対前年差を表す。

※ H29指標の実現状況のうち、()内は対H29目標差を、○印はH28現状値よりも改善した指標を表す。

教育委員会 (担当課)検証 (取組の継続等)	S 目標達成・取組完了 (目標達成、事業計画完了による取組終了)	検証委員検証 (担当課評価の妥当性)	○ 妥当
	A 継続実施 (拡充・現行方法による継続実施)		△ 疑義あり
	B 改善実施 (取組の改善・見直しによる継続実施)		— 評価不能
	C 抜本的見直し (取組を継続する場合は抜本的な見直しが必要)		
	D 取組廃止 (効果・必要性等から取組を廃止)		

〔施策と取組の自己検証〕

施策 ㊦ 学校園及び給食センターの安全対策やICT環境等の教育環境の整備・充実	中間外部検証		年度末検証	所管課
	担当課	検証委員会	教育委員会	
1 学校園施設、設備、遊具等の定期的な安全点検及び改修並びに整備の実施	A	〇〇〇	A	教育総務課
2 老朽プールの整備	A	〇〇〇	S	
3 吊り天井等落下防止対策の推進	A	〇〇〇	A	
4 ICT環境の整備	A	〇〇〇	A	
5 地産地消の推進と安全・安心な学校給食の提供	A	〇〇〇	A	
6 食物アレルギーへの取組の推進	A	〇〇〇	A	
7 通学(園)路の安全点検と安全教育の充実及び関係機関・保護者・地域との連携強化	A	〇〇〇	A	こども教育課
8 通学(園)手段の確保	A	〇〇〇	A	こども育成課
9 幼児教育・保育施設の整備	A	〇〇〇	A	

〔施策における取組の総括:担当課中間検証〕

老朽化等により不具合が生じた施設は、緊急度の高いものから順次、改修している。また、それ以外のものは経過年数、状況等から判断し、計画的な改修に努めている。

今後も、子どもたちの安全を確保し、学習環境を向上させるため、専門業者、学校職員等による定期的な施設点検を実施し、計画的な改修・整備を行う。

施策 ㊧ 様々な困難や課題を抱える子どもたちに対する教育の機会を確保するための就学支援	中間外部検証		年度末検証	所管課
	担当課	検証委員会	教育委員会	
1 要保護・準要保護児童生徒への就学援助費の支給	A	〇〇〇	A	こども教育課
2 特別支援学級在籍児童生徒への就学奨励費の支給	A	〇〇〇	A	
3 就園奨励事業(実費徴収に係る補足給付事業)の実施	A	〇〇〇	A	
4 多子世帯・ひとり親世帯の保育料負担軽減	A	〇〇〇	A	こども育成課

〔施策における取組の総括:担当課中間検証〕

㊦-3、㊦-4ともに経済的に援助を必要とする保護者の経済的負担を軽減するため、継続して実施する。

〔中間外部検証意見〕

〔年度末教育委員会検証〕

基本的方向全般

安全安心な教育環境の整備については、今後も各事業の実施が継続的に行われるよう努めていただきたい。特に、子供たちの安全の確保については、最優先で速やかな対応をお願いしたい。

子どもたちの安全を確保し、学習環境を向上させるため、計画的な改修・整備を行うとともに、緊急度の高いものは速やかに対応したいと考えます。

施策 ㊦

基本的には妥当であると評価する。

教育環境面ではいろいろな形で対応していただいている。特に食物アレルギーへの対応については、命にかかわることなので、学校でも研修したり個々の対応を相談するなど取り組んでいただきたい。

食物アレルギーへの対応は、関係者・関係機関が緊密に連携し、安全性がさらに向上するよう取り組みます。

ICT環境整備については、より活用が推進される整備・更新を行っていきます。

各施設の整備は本当によく対応していただいている。特に食物アレルギーへの取組の推進についても素晴らしいと思っている。ICTの環境については、できる限り、よりよい整備を行っていただきたい。

幼児教育・保育施設の整備について、遊具の件も迅速に対応していただいております。引き続きお願いしたい。

〔基本的方向における総括:教育委員会年度末検証〕

子どもたちが安心して学校園生活を送るため、施設整備や食物アレルギーへの対応、ICT環境の整備など、引き続き、計画的に安全で質の高い教育環境の整備に取り組んでいきます。

第3次とよおか教育プラン(豊岡市教育振興基本計画) 平成29年度実践計画検証総括シート

基本方針 2	子どもたちの学びを支える仕組みの確立
基本的方向 3	家庭の教育力の向上
	<p>家庭は、教育の原点であり、家族のふれあいの時間を確保し、基本的なしつけを行うことにより、人間関係の基礎を形成し道徳性の芽生えを培うことや、食生活と睡眠を重視した規則正しい生活習慣を身に付けさせることが重要である。</p> <p>このため、㊦親が親として成長するための学びの機会の提供、㊧関係機関の連携による家庭教育への支援、㊨家庭における子どもが伸びる習慣づくりの実践等に取り組む。</p>

〔指標の検証〕

指標名	H28現状値(目標差)	H29目標値(前年差)	H29指標の実現状況
<input type="checkbox"/> はばたきメッセージを入学説明会等で活用した学校の割合	100%(±0) ○	100%	100%(±0) ○
<input type="checkbox"/> 子育て講座の実施	子育てセンター 4箇所で開催(-2)	子育てセンター 6箇所で開催	子育てセンター 4箇所で開催(-2)

■・・・全国学力・学習状況調査の児童生徒質問紙を用いて評価を行う指標。

□・・・各所管課の事業や独自調査などの結果により評価を行う指標。

※ 全国学力・学習状況調査 【平成29年4月18日実施】

国・公・私立学校の小学6年生と中学3年生を対象に実施する、国語、算数・数学、理科の教科に関する調査及び生活習慣や学習環境等に関する調査。(4月実施、8月結果公表)

※ H28現状値のうち、()内は対H28目標差を、○印はH28現状値よりも改善した指標を表す。

※ H29目標値のうち、()内は対前年差を表す。

※ H29指標の実現状況のうち、()内は対H29目標差を、○印はH28現状値よりも改善した指標を表す。

教育委員会 (担当課)検証 (取組の継続等)	S 目標達成・取組完了 (目標達成、事業計画完了による取組終了)	検証委員検証 (担当課評価の妥当性)	○ 妥当
	A 継続実施 (拡充・現行方法による継続実施)		△ 疑義あり
	B 改善実施 (取組の改善・見直しによる継続実施)		— 評価不能
	C 抜本的見直し (取組を継続する場合は抜本的な見直しが必要)		
	D 取組廃止 (効果・必要性等から取組を廃止)		

〔施策と取組の自己検証〕

施策 ㉗ 親が親として成長するための学びの機会の提供	中間外部検証		年度末検証	所管課
	担当課	検証委員会	教育委員会	
1 はばたきメッセージを活用した家庭教育のあり方の充実	B	○○○	B	こども教育課
2 PTA活動の充実	A	○○○	A	
3 子育て家庭を対象とした子育て講座の実施	A	○○○	A	こども育成課
4 親子が交流できる機会の充実	B	△○○	A	
<p>(施策における取組の総括:担当課中間検証)</p> <p>引き続き、『はばたきメッセージ』を活用し、親が親として成長する契機の創設に努めていきたい。 豊岡市PTA連合会と連携し、定期的に学びの機会を提供する。 子育てセンターでの子育て講座はじめ各種事業については、事業後のアンケートからも満足度など高評価をいただいているものが多い。引き続き全子育てセンターでの子育て講座の実施について事業調整等に努めるとともに、事業内容などについて、保護者の意見を参考に、よりニーズにあったものが提供できるよう、なお一層の事業の充実を図っていきたい。</p>				

施策 ㉘ 関係機関の連携による家庭教育への支援	中間外部検証		年度末検証	所管課
	担当課	検証委員会	教育委員会	
1 子育てに関する相談の充実	A	○○○	A	こども育成課
2 子育てに関する情報発信	B	△○○	A	
3 学校園と家庭児童相談室・こども家庭センターなどの関係機関との連携	A	○○○	A	
<p>(施策における取組の総括:担当課中間検証)</p> <p>こども支援センターが調整機関となり、学校・園、健康増進課等の関係機関と情報共有し、連携を図りながら家庭を支援している。家庭の様々な状況にかかる情報を整理し、必要な支援方策の調整を図るため、相談対応職員のアセスメント能力の向上を図るとともに、健康増進課およびこども支援室と常に情報共有を行い、妊娠期から支援が必要な家庭等を関係機関と役割分担をしながら支援していく。</p>				

施策 ㉙ 家庭における子どもが伸びる習慣づくりの実践	中間外部検証		年度末検証	所管課
	担当課	検証委員会	教育委員会	
1 すくすくメッセージや紙芝居「めらとにんじやのしゅぎょう」を活用した乳幼児期の生活リズムの定着	A	○○○	A	こども育成課
2 「運動遊びパンフレット」「おでかけマップ」により、家庭や地域での運動遊び・外遊びの促進	A	○○○	A	
<p>(施策における取組の総括:担当課中間検証)</p> <p>生活リズムの定着については、子育てセンターでの各種事業等を通して啓発している。今後もその重要性を継続的、効果的に訴えていく。</p>				

〔中間外部検証意見〕

〔年度末教育委員会検証〕

施策⑦

幼稚園でも年に一回子育てセンターの皆さんに来ていただいて交流している。保護者の方や子どもたちから子育てセンターでの楽しい活動の内容を聞かせてもらっている。保護者のよき学びの場にもなっているし、親同士・子ども同士のよき交流の場になっていると聞いているので、継続して取り組んでいただきたい。

施策⑦-2

各学校でPTA活動として講演会が行われている。最近では5・6年など子どもと一緒に参加できる講演会も行われている。毎年、どんな講演会がいいのか協議するが、各学校でよかった講演など情報が共有できればPTA活動も活性化されると考える。

PTAでは、講演会の講師を選ぶのに非常に困っておられる。学校によっては役員に尋ねられる。役員の情報は少ないので、講師の情報提供をお願いしたい。

施策⑦-3

昨年よりこども支援センターの機能が充実し、園でも以前より情報共有・連携がとりやすくなった。より一層スムーズな連携・情報共有が行えるよう体制を維持されたい。

子育てセンターの事業について、保護者の意見や親子を取り巻く社会環境の変化などに応じて、より求められる内容の事業を提供できるよう一層の充実を図っていきます。

市PTA連合会と協議し、各単位PTAでの事業及び活動の状況を集約・共有することを検討したいと考えています。

こども支援センターの相談支援体制の充実に努めます。

〔基本的方向における総括:教育委員会年度末検証〕

保育所を利用する家庭が増えていることから、子育てセンターでは、0～1歳児の利用が多くを占める傾向にある。このような子育てにまだ多くの不安を抱えている時期の家庭に対して、基本的な生活習慣の大切さなどを理解し、実践していただく効果的な事業内容を意識するなど、家庭教育の充実に資する交流の場、親育ちの場を提供できた。

第3次とよおか教育プラン(豊岡市教育振興基本計画)

平成29年度実践計画検証総括シート

基本方針 2	子どもたちの学びを支える仕組みの確立
基本的方向 4	地域全体で子どもを育てる環境づくりの推進
	子どもたちが地域の中で多様な学びと交流による経験豊かな成長がかなえられるよう、学校園・家庭・地域が一体となって、地域全体で子どもたちの教育に取り組むことが重要である。 このため、㊦地域が主体的に学校運営に参画し、効果的な学校園支援活動を行うこと等地域ぐるみで子どもを育成する体制づくり、㊧学校園からの積極的な情報発信を踏まえた地域と学校園の緊密な連携等に取り組む。

〔指標の検証〕

指標名	H28現状値(目標差)	H29目標値(前年差)	H29指標の実現状況
■ 今住んでいる地域の行事に参加している児童生徒の割合	小 91.1% (-2.9) 中 69.5% (-0.5) ○	小 94% 中 70%	小 90.3% (-3.7) 中 67.5% (-2.5)
□ 土曜チャレンジ学習事業を実施する小学校の校区数	20小学校区 (±0) ○	29小学校区 (+9)	29小学校区 (±0) ○
□ PTCAあいさつ強化月間の取組参加者数	5月 9,935人(-821) 11月 9,347人 (-1,205人)	前年度以上の参加者数	5月 9,674人(-261) 11月 9,777人(+430)
□ 夏休みラジオ体操顔見知り運動中学生参加率	91.9% (-3.1) (1,994人)	95%	94.5% (-0.5) ○ (1,962人)
□ 学校支援地域本部事業に係る活動事例発表校数	発表済み校数 小学校 27校(±0) ○ 中学校 9校(±0) ○	未発表校2校の発表 (-1)	発表済み校数 小学校 29校(±0) ○ 中学校 9校(±0) ○
□ 子どもの野生復帰大作戦子ども向けコース定員に対する参加者率	91.8% (-8.2)	100%	78.6% (-21.4)
□ 保育園待機児童数	56人 (-56) (H29.3.1現在)	待機児童なし	56人 (-56) (H30.3.1現在)
□ 放課後児童クラブ待機児童数	1人 (-1) (H29.3.1現在)	待機児童なし	0人 (±0) ○ (H30.3.1現在)

■・・・全国学力・学習状況調査の児童生徒質問紙を用いて評価を行う指標。

□・・・各所管課の事業や独自調査などの結果により評価を行う指標。

※ 全国学力・学習状況調査【平成29年4月18日実施】

国・公・私立学校の小学6年生と中学3年生を対象に実施する、国語、算数・数学、理科の教科に関する調査及び生活習慣や学習環境等に関する調査。(4月実施、8月結果公表)

※ H28現状値のうち、()内は対H28目標差を、○印はH28現状値よりも改善した指標を表す。

※ H29目標値のうち、()内は対前年差を表す。

※ H29指標の実現状況のうち、()内は対H29目標差を、○印はH28現状値よりも改善した指標を表す。

教育委員会 (担当課)検証 (取組の継続等)	S 目標達成・取組完了 (目標達成、事業計画完了による取組終了)	検証委員検証 (担当課評価の妥当性)	○ 妥当
	A 継続実施 (拡充・現行方法による継続実施)		△ 疑義あり
	B 改善実施 (取組の改善・見直しによる継続実施)		— 評価不能
	C 抜本的見直し (取組を継続する場合は抜本的見直しが必要)		
	D 取組廃止 (効果・必要性等から取組を廃止)		

〔施策と取組の自己検証〕

施策 ⑦	地域が主体的に学校運営に参画し、効果的な学校園支援活動を行うこと等地域ぐるみで子どもを育成する体制づくり	中間外部検証		年度末検証	所管課
		担当課	検証委員会	教育委員会	
1	安全ボランティアによる見守り活動の継続及び活動支援	A	〇〇〇	A	こども教育課
2	学校支援地域本部事業の推進	B	△〇〇	A	
3	土曜チャレンジ学習事業の推進	A	〇〇〇	A	
4	子どもと心でつながる市民運動の推進	B	△〇〇	B	生涯学習課
5	青少年健全育成推進及び青少年補導委員の連携・活動の充実	A	〇〇〇	A	
6	「家読」の推進	B	△〇〇	B	
7	子どもの野生復帰大作戦の展開	B	△〇〇	B	
8	仕事と子育ての両立支援	A	〇〇〇	A	こども育成課

(施策における取組の総括:担当課中間検証)

安全ボランティアによる見守り活動支援では、ボランティアの高齢化や人口減少のため、地域によっては人員の確保が困難になってきていると感じる。

学校支援地域本部事業については、現行方法による継続実施とする。取組の改善・見直しについても検討している。

土曜チャレンジ学習事業は、当初計画のとおり実施できている。

「地域の子どもたちは地域で育てる」取組の成果は、地域で子どもたちの役割が徐々に生まれてきていることから今後も継続していく。

仕事と子育ての両立支援施策の一つとして、放課後児童クラブを開設している。平成29年度も年度当初から全校区で開設、運営しているが、利用者が年々増加しており、待機児童が生じている。今年度は、児童クラブの専用施設の整備(五荘校区)も進めており、引き続き、開設スペースの確保・拡大、支援員等職員の確保に努め、待機児童の解消を図っていきたい。

平成25年度から保育所待機児童が生じる状況が続いている。特に0歳児から2歳児の受入れ拡大に努めてきたが、さらなる受入れ拡大が必要である。

施策 ①	学校園からの積極的な情報発信を踏まえた地域と学校園の緊密な連携	中間外部検証		年度末検証	所管課
		担当課	検証委員会	教育委員会	
1	学校・家庭・地域の連携強化	A	〇〇〇	A	こども教育課
2	地域や警察等関係機関と一体となった防犯訓練の全校実施	A	〇〇〇	A	
3	「子どもを守る110番の家」等の避難場所の周知など、地域安全マップの定期的確認	A	〇〇〇	A	
4	開かれた学校づくりの推進	A	〇〇〇	A	
5	学校評議員制度を活かした学校園づくりの推進	A	〇〇〇	A	
6	学校関係者評価の実施と結果の公表	A	〇〇〇	A	
7	幼稚園・保育園・認定こども園の園児と在宅親子との交流	A	〇〇〇	A	

(施策における取組の総括:担当課中間検証)

子どもたちが地域の中で多様な学びと交流による経験豊かな成長がかなえられるよう、HPや学校園便り等の情報発信、学校評議員会や学校関係者評価など学校と地域との対話を重視した取組を継続することが重要である。

施策⑦

安全ボランティアによる見守り活動もだが、学校支援ボランティアについては、学校によっては不足している状況であるため、コミュニティ全体で市民の協力が必要と考える。

施策⑦-2

学校支援地域本部事業は、豊岡市は力を入れて取り組んできた事業だと考える。この事業の良さを継続していただきたい。学校支援コーディネーターの役割が重要となるが、講師とのつながりがあるので、ぜひ継続していただきたい。

学校支援コーディネーターを確保することが難しいのではないかと。初期の段階では成り手が無かった。学校支援コーディネーターに対する期待も大きいと、現場の意見を聞いて事業に取り組んでいただきたい。

施策⑦-6

「家読」については、学校や図書館でも取り組まれているが、取り組み方の違いもあり、「家読」という言葉が浸透していないように思われる。より一層、学校やPTA、図書館と連携して周知を図り、継続して取り組んでいただきたい。

図書館を利用することで本に触れる機会も増え、本を身近に感じ、本が好きになる。図書館が日常の生活の中に浸透し、家庭での読み聞かせが定着していくよう期待する。

「図書館の大切な本を破ってしまったり、いたずら書きをしまったらどうしよう」と図書館へ行くことをためらう乳幼児保護者もいる。図書館員は、本を破る事を心配するよりも絵本に触れる、絵本に親しむことの大切さを伝えていただきたい。

施策⑦-7

子どもの野生復帰大作戦について、年々参加人数が減少しているが、自然体験活動によって地域の自然や文化・伝統を学ぶ事ができる良い事業だと考える。参加者が確保できるよう、引き続きPRに努めていただき、継続した活動になるよう来年度以降も取り組んでいただきたい。

事業実施は団体に委託されているが、アンケートでは出てこない参加者の意見もあると思うので、現場に行くなどして団体と協力しながら事業を行っていただきたい。

施策⑧-1

学校・家庭・地域の連携強化の中で、PTCAだけでは地域との連携はできない。一番難しいのは地域との連携であり、地域との連携のあり方を根本的に考える必要がある。PTCAはPTAに地域を入れただけであり、豊岡市の教育らしい取組を考える必要がある。

施策⑧-3

地域の方による見守り「子どもを守る110番の家」は、安全ボランティアと合わせ、大きな役割があると考え。あいさつをしたり、声をかけてもらったりしながら、顔馴染みになっていくことで地域の環境が整っていくと思われる。また、日頃の防犯訓練も必要と考える。取組を継続していただきたい。

施策⑧-7

子育てセンターは、主に在宅の親子を対象として、事業を展開している。「そとあそび広場」や「子育てグループの活動」を通して、保育園や認定こども園、幼稚園との交流の機会を持っている。交流会では、保護者は園児との交流を通して成長した我が子を思い成長発達や園での生活を楽しみにしている。取組を継続していただきたい。

ボランティア確保のため、学校とともに地域全体へお願いしていきたく考えます。

学校支援コーディネーターは、事業推進のため不可欠な存在であるが、年々減少している状況にあります。新たなコーディネーターの養成等に努めていきます。

「家読」を家族の新しいコミュニケーション手段として推進するため、「秋の読書週間」や「とよおか家族の月間」を中心に「うちどくノート」の活用推進や広報誌での紹介など周知に力を入れました。

図書館を身近に感じられるツールの一つとして「家読」の更なる推進を図っていきます。

平成30年度の事業実施においては、子どもたちの生活環境やニーズ等、今年度までの事業検証を踏まえ、業務委託者選定について公募を行い、より魅力的で質の高い自然体験活動機会の提供を計画しています。

今後も、HPや学校園便り等の情報発信、学校評議委員会や学校関係者評価など学校と地域との対話を重視した取組を継続するとともに、こども育成課、こども教育課、生涯学習課でビジョンを共有し施策展開を図るよう努めます。

地域と一体となって取り組む重要な活動であり、継続していくべきであると考えています。

子育てセンターでも、引き続き、認定こども園などとの交流の機会を持ちたいと考えています。

〔基本的方向における総括:教育委員会年度末検証〕

平成28年度に引き続き、“地域から学校へ”“学校から地域へ”の各視点から施策を進め、学校・家庭・地域が相互に連携・協力し、そして協働を図る環境づくりを着実に進めることができた。

各施策の検証にもあるように、実績を踏まえた上で必要な見直しを行い、各事業がより有効な取組となるよう改善に努めたい。